



国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002-2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.9

ガバナー月信

3月号
March

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp





小林 博

上に立つものの責任

上に立つものの責任とは何だろうか？ まず柔軟な発想と改革の意識を持つことではないか。京セラ会長の稲盛和夫氏はある本で次のように述べている。「意識改革なくして構造改革なし。いまこそ勇気と知恵を持って真の改革をすすめなければ日本は没落してしまう……大きな痛みを伴うかもしれない。そうであったとしても、変化を恐れることなく、困難を避けることなく、我々の未来のために行動を起こさなくてはならない。しがらみを断ち切り、既得権益を投げ捨て新しい社会をつくり上げる勇気を持たなければならない」。

小泉改革を支持する立場の日本経団連の奥田碩会長は最近、日本記者クラブで要旨次のような講演をしたと新聞が報じている。奥田会長はリーダーの条件として①改革に取り組む信念を、真先に指摘し、次いで ②説得あるビジョンの提示 ③敗者への配慮を欠かさない責任感 ④率先して行動すること一を挙げ、小泉首相については「完べきとはいえないが、これらの資質を十分持っている。改革を応援したい」と述べている。

我々ロータリアンは各々が一つの組織のリーダーであることが多い。先の稲盛さんや奥田さんの言葉をすぐあてはめるわけにはいかないにしても、その基本的なことは十分な理解と共感をもって受け入れられるのではないかと思う。

さらに指導者の人柄とか人間性という点については、地区幹事の米山道男会員（札幌北RC）は次の三つがリーダーの条件として大切ではないかといっている。一つは人間としての明るさ、人柄とか包容力。二番目は人間としての賢さで、物事の進むべき方向づけをする判断力。三つ目は人間としての強さ。失敗しても反対があっても恐れずやりぬく実行力のことである。

いまロータリーは大きく変わろうとしている。変えるべきものは変えなければいけないし、そのための改革の勇気も大切である。また各職場にあってはロータリアンは組織牽引のリーダーとして、人間一人ひとりがおかれる状況の違いを超えて、自らの属する組織（その大小に関係なく）で心して最善をつくさなければと思う。それは職業奉仕の心であり、また社会奉仕、国際奉仕から家庭奉仕に至る周辺のすべての人達に対する「慈愛の心」の実践に他ならない。

慈愛の心を上に立つものが率先実践することが即ロータリーという組織をよくし、また自らの属する組織をよくすることにつながる。自戒をこめて言うのだが、上に立つものの責任を考えてみるのが、まず上に立つものの責任と心得たい。

目次

ガバナーレター	小林 博	2	ブリスベン国際大会と「日本人親善朝食会」へのお誘い	23
地区委員会前期活動報告		3	クラブ活動紹介	24
ガバナー日記		7	えりもRC・札幌北RC・函館大谷高校インターアクトクラブ・室蘭東RC	
ロータリーQ&A		12	会員の声	26
追悼 富田嘉市バスターガバナー		13	今川徳郎(江差RC)・佐藤順一(当別RC)・大橋由政(岩内RC)・中村和雄(札幌手稲RC)・喜多 昌(えりもRC)	
竹山涼一・大橋康次・牧野 嵩			掲示板	28
文庫通信		14	ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	28
ガバナーとの対話		15	JGFR北海道大会へのお誘い	28
地区活動紹介		18	ロータリー財団国際親善奨学生募集	28
国際親善奨学金委員会・新世代委員会・広報委員会			事務所日より	28
小中学校で講義をしてみませんか	米山道男	19	1月会員増減数・出席率報告	29
ワークショップのご案内		20	3・4月地区カレンダー	29
アンケート調査の結果と分析		21		
オーストラリアからの受け入れ学生紹介		23		
2003年冬季キャンプ		23		

地区委員会前期活動報告

2002.7~2002.12



クラブ奉仕委員会 委員長 神代利臣(札幌幌南)

- ①当地区では恐らく初めてであろう、地区内全会員に対する「ロータリー意識調査」を行った。
- ②12月末現在の回収率は50%であるが、ガバナースタッフ・事務局員の協力により集計作業を行った。



職業奉仕委員会 委員長 富岡公治(札幌西北)

- ①地区委員会においてロータリー創立以来の職業奉仕理念の誕生及びその後の経過と現状に対する勉強会を開催した。
- ②10月の職業奉仕月間を中心として地区内クラブから卓話の要請があった場合、地区委員会により各委員が分担して派遣実施した。
- ③平成14年10月7日、札幌市中央区民センターにおいて、小林博ガバナーを講師として、第1回ロータリー市民講座を開催し、約80名の市民が全道から聴衆として参集した。

小林博講師の「がんと人間」というテーマの話は、自分及び家族の身近にがんの患者がいる人もおり、深い感銘を与えた。



ロータリアンによる小学校の課外授業
“みんな仲良く、家庭のこと”

3.4年生の児童に囲まれる和田壬三会員(中央)



社会奉仕委員会 委員長 対木正文(札幌西)

- ①地区内5カ所(滝川、余市、苫小牧、函館、札幌)で7月から10月にかけて、地区社会奉仕委員会が主催し、クラブの社会奉仕委員長さんを対象とした意見交換会を開催。事業のマンネリ化を防ぎ、真に地域社会が求め時代にあったプロジェクトについて情報交換した。
- ②札幌で昨年10月に開催された身体障害者の世界大会の意義をクラブに伝え、クラブから拠出された80万円を大会事務局に手渡した。
- ③地区委員会を地区内各地で7回開催した。



家庭奉仕委員会 委員長 和田壬三(札幌幌南)

- ①6月1日、7月4日委員会を開催し、各委員の家庭奉仕観について、地区幹事、ガバナー、地区社会奉仕委員などを交えて、お聞きしましたが、単なる家事手伝いが社会奉仕ではないことに気づき、勉強会をすることにしました。
- ②8月17日(土)土橋信夫会員から、家庭とは、どのような集団であり、現代においては、愛情だけでは、幸な家庭を築くことが難しいとして、「親業訓練」という方法があることを教えていただきました。
- ③9月14日(土)土橋会員の奥様の芳美さんから、「親業訓練」とは、どのようなもので、その効果について具体的事例を交えてお話をいただきました。尚この時には、オープン参加とし、約10名のロータリアンが参加しました。
- ④10月24日(土)池上公介氏を講師に招き、登校拒否児や引き込みりの青年の問題点及びこれらの児に対する具体的な指導方法について学びました。
- ⑤11月15日(金)大場公孝氏から、知的障害児への指導法について学びました。



友情交換委員会 委員長 金井重博(札幌南)

- ①地区内、姉妹、友好クラブ調査と、11月号の月信で詳細発表。
- ②札幌地区国際関連団体の図書と、姉妹、友好調査、詳細を地区内72クラブに郵送
- ③地区対地区の交流として、以前、当地区とアメリカのアリゾナ州との交流を企画、第一回目の会談を、苫小牧で石垣パストガバナー、青木国際奉仕委員長とでアリゾナのRI5490地区パストガバナーWheeler氏と懇談した。
- ④プリズペンでの北海道ナイトを企画、特に会場予約。招待状企画印刷。



国際奉仕委員会 委員長 青木功喜(札幌東)

申告した活動計画に沿って、予定通りに進め、その一部はガバナー月信にても公表しました。
会計の報告は金井委員長から行われる。



情報委員会 委員長 亀井敏清(函館)

地区情報委員会は、各クラブ、各会員よりG事務所、当委員会に寄せられた定款・細則、クラブ運営に関するの質問に対し、G月信にQ&A方式をもって解答若しくは条文の解釈を、月信1号より6号迄掲載した。Qの件数19件。

委員会開催2002年9月24日、札幌にて、文献・IC、情報3委員会合同委員会を開催した。



文献資料室委員会 委員長 塚原房樹(札幌東)

- ・岩城G年度の地区ホームページをベースにして、7月1日付けにて、現小林Gのホームページを立ち上げました。IC委員会をはじめ滝川RCの有志のかたがたのお骨折りで、日本全地区の中でも、トップレベルの豊富な内容を持ったホームページとなりました。
- ・地区協議会において各クラブに地区のIT化のPRとお願いをした。
- ・IC委員会と提携して、各クラブのインターネット連絡の受け皿整備。



IC委員会 委員長 山田信夫(苫小牧)

(1) メールマガジンの配信

配信数 28

配信先数 267

地区役員へのDM 67

バックナンバーのページの開設

(2) インターネット活用の普及促進

卓話でIC委員会活動の紹介 1件

ウイルス対策支援 5件

2500地区情報セミナーへ講師として参加しメールマガジンを紹介

(3) IT化支援

ホームページ作成支援 2件



新世代委員会 委員長 奥貫一之(札幌東)

ロータリープログラム内の新世代関連委員会の横のつながりを模索する諸活動

- ・組織的な活動の代表的行事は9月のライラセミナー

- ・個別に少人数による各新世代の交流多数
- ・全国ガバナー会による青少年育成委員会に出席 (10月)



「新世代達の交流風景」

右から

インターアクト顧問 岡部先生(札幌北ローターアクト会長) 一般新世代

JALパイロット 訓練生 松下君、財団奨学生 星井さん(ニュージーランド)、米山奨学生 ルステム君(トルコ)、ROTEX小砂君(アメリカ)、ホストファミリー 奥貫せつ

(写真提供 新世代委員長 奥貫一之)



インターアクト委員会 委員長 細川好弘(静内)

- 7月・2日、ライラ委員会
 - ・6日、13日 海外研修事前研修 (北海高校)
 - ・13日、23日 顧問会議
 - ・20日、27日 海外研修事前研修 (各高校毎実施)
- 8月・1日～5日 海外研修 大韓民国ソウル市周辺 (インターアクター18名・顧問8名・留学生1名・ロータリアン2名 合計29名参加)
 - ・24日 地区委員会 (ホテル ライフオート札幌)
- 9月・3日 ライラ委員会
 - ・7日～8日 ライラセミナー (ジュニア部門・NTT研修センター)
 - ※詳細ライラ委員会
- 10月・11日 顧問会議
- 11月・7日 (世界インターアクト週間) 委員長例会卓話 (札幌東RC)
 - ・16日～17日 RC地区年次大会 パネル展示 (厚生年金会館)
 - ・21日 顧問幹事 (金山教諭) 協議 ・25日 新世代委員会
- 12月・16日 新世代関連委員会議



2月9日(日)札幌国際スキーマラソン交流会でインターアクター顧問教師と次年度活動について情報交換
堀田次期地区委員長(札幌東一上右)細川現委員長(静内一上左)



2002年8月2日 海外研修（韓国ソウル市）
福祉施設「明暉園」を視察、韓ヨセフ園長（左）へ奉仕の心を伝える佐伯茂昭地区インターアクト代表（北海高校）



ライラ委員会 委員長 宮崎善昭(札幌西)

①ジュニア・コース

2002年9月7～8日、札幌NTTセミナー・センター、講演 石川淑子氏
豊平川川岸清掃奉仕、ライラリアン参加者95名、ロータリアン参加者32名、顧問10名

合計117名参加

②シニア・コース

2002年9月21～22日、札幌JR研修センター、講演 宮崎幸雄 米山奨学会常務理事

ライラリアン46名、ロータリアン42名、合計88名参加



ライラ研修風景



研修に参加した皆さん



青少年交換委員会 委員長 清水慧子(長沼)

	行事实施日	行 事 名
02年		2002年アメリカ・スイス短期受入学生来日
7月	2002.7.14(日) 第1回委員会	01-02年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ受入学生帰国報告会 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾 受入関係者オリエンテーション 02-03年度派遣学生渡航手続き最終説明会 01-02年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ受入学生送別会・ 02-03年度派遣学生壮行会・2002年短期受入学生歓迎会（合同開催）
	2002.7.28(日) 第2回委員会	03-04年度派遣候補学生選考試験
8月		2002年アメリカ・スイス短期受入学生帰国・2002年アメリカ・スイス短期派遣学生出発 01-02年度派遣学生帰国・02-03年度派遣学生出発 01-02年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ受入学生帰国 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾受入学生来日
9月		2002年アメリカ・スイス短期派遣学生帰国
	2002.9.1(日) 第3回委員会	02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾受入学生オリエンテーション 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾 日本語教育説明会・ホスト別懇談会 01-02年度派遣学生帰国報告会 02-03年度アメリカ・カナダ・フィンランド・メキシコ・台湾受入学生歓迎会
	2002.9.7・8(土・日) 第4回委員会	ニセコキャンプ・第1回派遣学生オリエンテーション
10月	2002.10.14(日) 第5回委員会	青少年交換事業説明会 第2回派遣学生オリエンテーション
11月	2002.11.10(日) 第6回委員会	03-04年度オーストラリア クラブカウンセラーオリエンテーション 第3回派遣学生オリエンテーション
	2002.11.17(日)	地区大会
12月	2002.12.15(日) 第7回委員会	02-03年度オーストラリア受入学生帰国報告会 03-04年度オーストラリア受入関係者オリエンテーション 02-03年度オーストラリア受入学生送別会



ロータリー財団委員会 委員長 森本正夫(札幌西北)

昨年度は規定の変更など、ロータリー財団に動きがあった。経済の低迷に比例して寄付も低調な状態であるので、ガバナー月信を通じて会員各位に寄付をお願いした。ポリオプラスの寄付金についても11月現在で800ドルという状況であったので、各クラブに3年間で150ドルの拠出をお願いした。



財団増進委員会 委員長 若狭吉範(札幌北)

- ①2510地区の全クラブに対し、2002年～2003年度のロータリー財団への寄附予定額を自主申告して戴きました処合計284,650ドル申告して戴きました。2002年12月末に於ける実績は\$133,873.06で達成率47%となっております
- ②2002年11月16日地区大会第1日目午後の本会議で委員会活動状況を報告致しました。
- ③2002年12月14日(土)北海学園大学理事長室で開催された地区ロータリー財団委員会に出席し、変化するRIロータリー財団の状況、ルール等を勉強しました。



国際親善奨学金委員会 委員長 土橋信男(札幌南)

- ①2003-04年度の国際親善奨学生選考 11名を決定
2年間奨学生 2名、1年間奨学生 2名
6カ月文化研修生 2名、3カ月文化研修生 5名
- ②国際親善奨学生オリエンテーション 2回
7月20日 財団本部への申請書類の記載について
10月5日 これからの準備について
- ③ロシアからの国際親善文化研修生の受け入れ(ホストクラブ)
リュウバ・イグリナ(札幌モーニングRC) 7月-10月
アリサ・コワレンコ(札幌真駒内RC) 7月-9月
- ④次年度の奨学生募集に関する計画作成



財団学友委員会 委員長 鍋谷操子(函館東)

1. 委員会の開催
第1回7月27日、第2回10月11日、第3回12月6日
2. 活動内容の報告
 - ①財団学友会総会への参加
 - ②財団学友のRC卓話紹介
滝川RC-片岡徹、深川RC-神部寿郎
千歳RC-岡宏幸
 - ③財団学友会への賛助金支援
 - ④財団学友会活動を地区大会パネル展示で紹介
 - ⑤帰国財団学友報告会の準備



財団学友帰国報告会

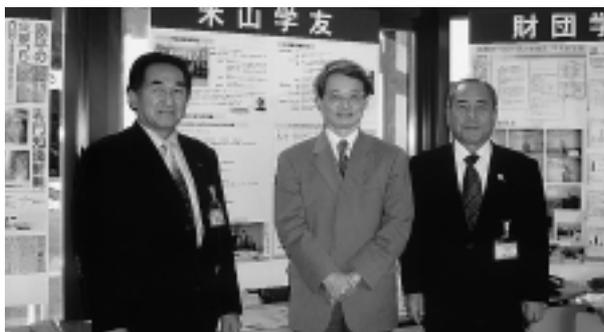


懇親会



米山学友委員会 委員長 見延庄三郎(小樽南)

- ①米山学友会(北海道)の名簿から現状確認調査
結果68名中46名 68%確認 引き続き確認作業を継続
- ②学友会とロータリー学友委員会との合同会議を3回開催
- ③ライラセミナーに参加 学友3名、委員5名 計8名
(9月21-22日)
- ④(11/16-17)地区大会参加 米山学友会PR展示パネル出展
- ⑤第3回(平成15年度)米山学友会総会及び懇親会開催
学友21名、ロータリアン6名 計27名 (於)札幌ロイヤルホテル



地区大会展示パネルの前で



米山学友会総会風景

ガバナー日記

クラブ訪問

今年度の活動も前半を終え、後半は今までの足りなかったことを補う形にしたいと念じている。とくに今年度からRIの指導にそってガバナーの公式訪問は合同例会を原則とするDLPの実施に踏み切ったために、ガバナーと各クラブ会員との関係が希薄にならざるを得なかった。この点をカバーすべく各クラブの要望を受け、つとめて各クラブを訪問し各クラブ会員との交流に努めたいと考えている。

その1つは、先月1月27日札幌大通公園RCの夜間例会に出席し、ポリオのお話をさせていただいた。ついで1月31日(金)岩内RCの主だった方々との交流を深める機会があった。岩内RCの野澤幸平会員からは是非一度岩内に来るようにとのお誘いを受けていたので、奥貫一之(札幌東RC)、見延庄三郎(小樽南RC)ご夫妻ともども岩内きっての名湯、聖観湯に1泊させていただいた。岩内RCはWCS実施のパイオニアクラブでもあり、大橋由政会長、武井優幹事ほか主だった方との交流は大変有意義だった。二次会では大橋会長、奥貫会員らのカラオケに魅せられた。前日から私ども夫婦は吹雪のなかを自分の運転する車で登別、洞爺を通してニセコを周り岩内に着いただけの甲斐があったと大変満足したのである。



左から奥貫一之・廣田満男〔後方〕・大橋由政・武井 優〔間 めがね〕・佐藤泰視〔後方〕・鳴海馨誠〔手前めがね〕・小林ガバナー・近藤徹哉・見延庄三郎・斉藤 徹〔後方〕・伊藤正敏・野澤幸平の各氏

財団奨学生研修会

国際親善奨学金奨学生が7月以降3、6カ月、1年、2年のスケジュールでそれぞれの国に派遣されることになっている。奨学生全員11名のほかロータリアン10名、財団学友5名、そして奨学会委員会の委員の計凡そ30余名が2月1日(土)、2日(日)当別町スウェーデンヒルズ(道新研修センター)における1泊の研修会に出かけた。

この企画は昨年に引き続く二度目だが、奨学生に奨学金を出すだけでロータリアンとの人間的交流が希薄な現状を憂いた土橋委員長の発想で始まったものである。奨学生は自己紹介と留学計画を話すのだが、みんな目が輝

き夢いっぱい胸膨らませ、「若い人はいいな」との思いに浸る。奨学会委員の瀧川哲夫(札幌手稲RC)、戸部アナマリア(札幌はまなすRC)のお二人から有意義なお話を伺ったあと会食。



奨学生の激励にかけつけたかつての奨学生(現学友)、後列は関係のロータリアン

土橋委員長から私に何か一言と言われたので、冒頭に「おめでとう」と言ったあとロータリアンからいただいた浄財を謙虚に受けとめ「ロータリーとのご縁をいつまでも大事にしていていただきたい」とお願いを申し上げた。また夕食後再び挨拶をということで、私は「積極的であれという多くの方の発言は大賛成だが、積極的に発言する内容を普段から作っていかなければならない」とことと、もう一つは「我々日本人としてのアイデンティティーが必要であるとの話であったが、もう一つアジア人としてのアイデンティティーも大事である」と二つのことを申し添えた。宿泊の予定をあきらめ、富田嘉市PG(室蘭RC)のご逝去に伴い急遽室蘭に行くべく帰宅させていただいた。

●●●●● われわれを送り出す財団奨学生 ●●●●●



今井愛実
(フランス、3カ月)



上森奈穂美
(タイ、6カ月)



中村理子
(トルコ、6カ月)



内山裕子
(オーストラリア、3カ月)



小橋麻美
(イタリア、1年)



西原明希
(イギリス、1年)



加茂実武
(イギリス、3カ月)



兼子 歩
(アメリカ、2年)



星井絵里子
(ニュージーランド、3カ月)



平岡美緒
(アメリカ、2年)



求馬久美子
(ドイツ、3カ月)

7月以降、諸外国に学ぶ国際親善奨学金奨学生女性9、男性2名。元氣な帰国報告を楽しみにしています。

富田嘉市PGご逝去

1978-1979年度のガバナー富田嘉市会員は1月31日(金)の朝に逝去されたとのこと。享年87歳。地区を代表しお別れの会に出席することにした。汽車に乗り込んだところ、たまたま大橋PGと隣り合わせの指定席となり、いろいろ昔話などを拝聴させていただいた。2月2日(日)午前11時のお別れの会にご遺影に焼香し、ご遺族に挨拶するだけの簡単なものだったが、沢山の方のお参りであった。ちなみにご三男の富田孝夫さんは室蘭東RCでご活躍中。

焼香が終わって斎藤修弥ガバナー補佐(室蘭RC)と速藤秀雄ガバナーノミニ(登別RC)のお誘いを受け3人でプリンスホテルでお昼を一緒にささげいただき楽しかった。改めて故富田嘉市PGのご逝去に心からお悔やみを申し上げる次第である(p13, 14を参考に)。

米山記念奨学生選考委員会

室蘭から札幌に戻ってすぐ、米山記念奨学生選考委員会(札幌パークホテル)に出向いた。丁度選考の終わったばかりだったが、応募者の学問的なレベル、経済的背景、そして国別の配分、ならびにホストクラブの地域性など実によく配慮されているので安心した。人間が他人を評価することは難しく、私自身も選考委員として2年間選考にあたったときのことを思い出した。改めて米山記念奨学生選考委員会の委員の皆さんのご苦勞に感謝したい。

ロータリーの友委員会

2月3日(月)夕刻、ロータリーの友(雑誌)委員会が開かれた。従来ガバナー所属のクラブから選出のロータリーの友地区委員1名だけが孤軍奮闘していたわけだが、年ごとの計画を継続性をもって進めた方がよからうということで、今年度からはロータリーの友委員会は前年度および前々年度および次年度の3人の委員に加わっていただき、現在のロータリーの友委員長佐藤公会員(札幌北RC)とあわせて計4人の構成になった。

今回の委員会の議題の一つは『ロータリーの友』編集長の二神典子さんをお呼びしてワークショップを行ったかどうかということであった。ワークショップとは単なる講演会ではなく一つのテーマについて同じ目線に立って討論を深め、一つの結論を導き出すようにしようという狙いである。従って人数も比較的40~50人以内の小人数が一般的である。例えば「地区会員に対するロータリー情報の伝達はいかにあるべきか」というタイトルのワークショップになるのだろうか? とすれば広報委員会、IT委員会との共催になろう。しかも地区幹事によって作られている『ガバナー月信』(地区のロータリーの友ともいわれる)の作成担当者との係わり合いも出てくる。前進を祈る。

『月信』の編集委員会

『ガバナー月信』の編集委員会は、月平均3~4回持たれているが、毎回結構な負担である。竹原巖編集委員長のほか米山アドバイザーも常時出席である。2月4日(火)の編集委員会は、少し遅れている2月号の最終校正と、3月号の枠組を検討した。ちなみに、熊谷委員(地区幹事、札幌北RC)が全ページの校正を担当されているので、誤字、誤植がまずほとんど見当たらないのも熊谷委員のお陰である。

『月信』は従来のようなトップからの情報伝達であれば、何の事はないが、ピチャイ・ラタクル会長の言われるように、これからのロータリーはボトムアップでなければならない。そうであれば、その精神を生かすための月信は全会員の意見交流の場であるのが望ましいとの考えで進めてきた。

子ども奉仕委員会

子ども奉仕委員会(米山道男委員長予定)のことはここ数号毎回紹介をしている。子ども奉仕のための拡大委員会として、2月4日、いつもの土橋、奥貫、和田、対木、富岡、近藤各委員会委員長(近藤会員は代理)と米山、竹原両地区幹事、並びに木村幹事エレクトが出席してホテルアルファ札幌にて開催。また、特に学校側の意見を拝聴しようということで、市立北九条小学校(高橋校長ら3名)、市立幌北小学校(野田校長ら2名)、市立北辰中学校(渡辺校長ら3名)の計9名の先生方にご出席いただき、今後の子ども奉仕委員会のあるべき姿を検討した。特に小中学校における課外授業をこの4月から始めるにあたってのロータリアンの名簿作成、更に職場研修などの具体的な話し合いがもたれた。学校側としては、もう1校市立白楊中学校を是非加えていただきたいとの希望で、了解した。



子ども奉仕委員会に集った左側小中学校の先生方、右側ロータリーアン

インフルエンザにかかる

2月4日(火)は朝から疲れていた。そのうち背中がザワザワしてきたので、熱があるようだ。でも午後から予定されていた月信の編集委員会や子ども奉仕委員会など



熊谷満会員

のスケジュールもあったので頑張っていた。夕方になって、これ以上無理してはいけないと思い、子ども奉仕委員会は出席はしたが懇親会に入ったときに失礼させていただいた。

そのまま帰宅して床について翌日、かかりつけ医の小林孝夫会員（札幌北RC、地区大会実行委員長）に診てもらったところ、鼻汁の発色テストでインフルエンザとの診断。予防接種をしていなかったのがいけなかったようだ。ガバナーエレクトを拜命してから始めての完全ダウンとなった。結局まる4日ベッドについてしまった。

新聞紙上にもインフルエンザはいま大流行である。小林孝夫会員によるとインフルエンザの流行のピークはいつも「雪まつり」の頃とのこと。インフルエンザワクチンの効果は接種後1カ月ぐらいてしてから出はじめ、その効果は6カ月続くので、予防接種は前年の10、11月に済ませておくのが望ましい。少なくとも発病間近になってからでは遅すぎるとのことだった。なお、ウイルス感染から発病まで1～2日といわれるが、幸いガバナー事務所の誰にも移していないようで安心した。

余市でのインターシティミーティング(IM)

2月15日(土)第6グループ(岩内、小樽、小樽銭函、小樽南、倶知安、余市、蘭越RC)のインターシティミーティング(IM)に参加すべくJRで余市駅に到着。余市RCの安田亘会長がわざわざ駅まで迎えに来てくださる。すぐ昼食に第6グループの近藤徹哉ガバナー補佐の経営されるお店の一つに案内された。そこで基調講演に予定の政治経済評論家の石井一二氏とも初対面。近藤ガバナー補佐とは知己の方で幅広い話題の持ち主で、その後の基調講演も楽しくまた有意義に聞かせていただいた。

基調講演の演題は「こんな日本に誰がした 混迷のロータリー」というタイトルだった。日本の抱える政治経済の現状をずばりの解説で、消費税ゼロにする、公共資金の提供、カジノの合法化など日本改革の15の提言で大変好評、質問も相次いだ。ロータリアンが政治経済を語ってはいけないといわれているが、ロータリーとして行動してはいけないという意味で、一人ひとりが論議することは大いに結構なことではないか。



第6グループIMではプロ顔負けのロータリアンの演技でもりあがった

基調講演が終わってから懇親会に入ったが、第6グループのロータリアンの歌唱力には全く脱帽。紅白に分かれての芸人ぶりはプロも顔負け。終わって小樽まで車でご案内いただき、あとは列車で札幌に戻る。

地区幹事をなぜ同伴しないのかとの質問をいただいたが、私はガバナー補佐がおられるのだし、このような機会はガバナー一人で十分であり、地区幹事の皆さんには家庭奉仕に励んでいただきたいと答えることにした。

様似でのインターシティミーティング(IM)

翌2月16日(日)朝8時発の道南バスにて3時間かかって浦河ターミナル着。第8グループ(浦河、えりも、様似、静内、三石RC)の郷司公雄ガバナー補佐(様似RC)が迎えに来てくれ、すぐに車で様似に移動。日高海岸は雪はなく晴天。遠く見えるアポイ岳の山々が白く美しい。昼食ののちIM。

第8グループのIMは「ロータリーの夢と希望を語ろう」ということで、全員が5つのグループに分れそれぞれ自分のロータリーに対する夢、希望を語り合い、各グループのリーダーがそれをまとめ、さらにそれを私が講評するというような展開となった。今までのIMはすべて特別講演の演者による一方的な話題提供に終始していたそうだが、このグループで初めての討論会ということもあり大変評判がよかった(p17を参照ください)。

加えて懇親会には東京からきた小松原ルナさんの色気たっぷりのカンツォーネを聞かせていただいた。加藤鉄二実行委員長(様似RC)の煎入りらしい。勉強の疲れが一辺に飛んだ感じで極めて和気あいあいと楽しく「今日のIMは良かったね」との声しきり。終わってすぐ帰札の予定だったが郷司ガバナー補佐のお勧めで泊まることにした。二次会には様似RCの女性会員2人と会員のご夫人方を含め20余名が集まりみんなで酒と海の幸で楽しく談笑した。



坂本好則会長(様似RC)を中央にみんなで楽しく談笑、右端郷司公雄ガバナー補佐

札幌でのインターシティミーティング(IM)ほか

2月22日(土)第4、5グループのインターシティミーティング(IM)が札幌ルネッサンスホテルにて開催。テーマは「慈愛の種は家庭から」で司会は和田壬三会員(札幌南RC、家庭奉仕委員会委員長)。

土橋信夫会員(札幌南RC)の基調講演の後、ご夫人の土橋芳美さん、大場公孝会員(上磯RC)、池上公介会員(札幌モーニングRC)、松本純枝会員(深川RC)と4人のパネリストによる講演。その後1時間余フロアからの熱心な質問が相次いだ。



土橋芳美さんのお話にきき入る [撮影：長谷川久夫会員 (札幌セントラルRC)]

ロータリーの四大奉仕をいう前に最も足元にあって大事なのが家庭奉仕ではないかとの趣旨から始まったものである。家庭をいかに平和にもたせるか、また家庭不和による家庭内暴力、不登校をどのようにして予防できるかという問題が大いに討論された。

基調講演並びにパネリストの素晴らしい演説もさることながら、フロアからの思いがけない質問が今回のIMを成功に導いた最も大きな力になったのではないだろうか。一般市民の参加も許された。最後に私自身は皆様の貴重な話の中から慈愛の種を家庭にもたすために大事なことを3点にまとめてみた。1つは相手の話を良く聞くこと。2番目、相手の言うことを理解し相手の人格、人権を認めること。3番目、お互いに誉めあうこと。誉め殺しでも良い。相手を誉める為には口先だけではいけないので、相手を認めることから始まり相手の話を良く聞くことによって熟していく。心から相手のいいところを認め、理解し誉めることが出来れば家庭も職場も組織も和やかなものになっていくのであろう。

皆様のお話を聞きながら私は英語で次のように言えるかと考えてみた。

Love begins at home. Home is where the heart is. Rotarians make the home happy.

(愛は家庭から始まる。家庭は心の宿るところである。ロータリアンは家庭を幸せにする。)

懇親会が始まってすぐ米山記念奨学生の歓送会(札幌パークホテル)に移動した。予想外の大雪で時間もかかったが間に合ってよかった。米山記念奨学生の日本語は本当に上手である。日本人学生に聞かせたいと思うほどだった。

ちなみに今日の朝は江別ロータリークラブの西村学会長が思わぬ事故で脊髄損傷で入院しているのをクラーク病院にお見舞いした。2度目のお見舞だったが顔色もよく声にも元気が出たようでよかった。ロータリー会員に代わってお見舞いの言葉を申し上げたが、西村会長は心から喜んでおられた。やはりお見舞して良かった。

室蘭でのインターシティミーティング(IM)

翌23日(日)第9グループのインターシティミーティング(IM)に出席。東室蘭着、藤川康司会員(室蘭RC)の出迎えを受け、齊藤修弥ガバナー補佐と一緒に昼食。第9グル

ープのIMのテーマは「命の尊さ がんに挑むがん学ぶ」ということで、私自身の基調講演の後、西村昭男会員(室蘭RC、日鋼記念病院グループ理事長)などのご参加をいただき市民と一緒にがんに関する「何でも相談」を行ったのである。齊藤修弥ガバナー補佐



正直なところ私自身の専門の「がん」と「ロータリー」とは全く別世界のものと考えていたが、齊藤ガバナー補佐の意表をつく企画によって私自身がロータリアンとしてまたがん学者の1人として室蘭の市民の皆さまに会い見ることになった。齊藤AGの狙いはがんは単なる病気としての理解ではなく健康を損なう一番大きな疾病として、しかもこれが我々の最も身近な病気となってきたこと、またこの病気によってロータリー活動を断念せざるを得なかった多くのロータリアンを見てきたうえでの企画であったように思う。



室蘭は道内でも屈指の高い医療レベルを持つところとして知られている。市民の皆さんから頂戴した質問も非常にレベルの高いもので、今回の市民トークは大成功であったように思う。私自身の基調講演は思いきって15分ほど短縮し、その分コーディネーターの齊藤修弥AGに司会の「市民とのトーク」に使ってもらってよかった。

なお、このロータリー市民講座には新宮正志室蘭市長ほか多くの室蘭市民の参加があり、また第10グループのガバナー補佐松見修二会員ご夫妻も札幌の第4、5連合のIMに引き続いて参加してくださいました。

また、先の藤川康司会員は室蘭を訪れるたびに齊藤修弥AGの補佐としていつも車で送り迎えなどをお務め下さって、ただ感謝の一語あるのみである。

ロータリー市民講座終了の後は場所を室蘭市民会館から室蘭プリンスホテルに移動し、そこで第9グループの会員およそ200名による懇親会。遠藤秀雄ガバナーノミニ、守屋弘ガバナー補佐エレクト、新宮室蘭市長の参加もあって大いに楽しいひと時を過ごすことが出来た。

第3グループ会長幹事会、ならびに栗山ロータリークラブ公式訪問

昨年7月の栗山・栗沢合同例会に公式訪問の時、栗山RCの北川清則会長から来年の2月25日(火)にもう一度公式訪問していただきたいとのご依頼を受けていた。何のことかと思っていた疑問がようやく解けた。

3時30分のライラックで岩見沢駅着。岩見沢RC小林弘



小林酒造の工場見学、中央辻野修ガバナー補佐

明会長、荒木敏博幹事の出迎えを受け、前ガバナー補佐の向田甚市さんと一緒に会場の小林酒蔵（栗山RC小林米三郎氏の経営による）に行く。しばし小林会長とお話の後、第3グループの江別RC西村孚会長を除く全会長幹事が出席。辻野修ガバナー補佐のいつもの見事な采配でてきぱきと行事は進む。よく学び、よく遊べをモットーに非常によくまとまったグループで、しかも非常に意気盛んである。

会長幹事会が終わってから小林酒蔵の酒造りを見学。同じ小林という名のことでもあって子供の頃からの小林酒蔵を見学したいとの夢がようやく果せた。現会長の小林米三郎氏は新潟出身の3代目。米造りの伝統を守り続けておられる。

6時から栗山ロータリークラブの夜間例会が始まる。第3グループの会長幹事も同席。「こうやって和やかな皆さんの雰囲気の中に浸るとロータリーの出会いの縁をしみじみと感じます。」と簡単な挨拶をさせていただいた。

栗山ロータリークラブの皆さんが手作りの豚汁や小林酒蔵提供の各種のお酒のもてなしとあって和やかな公式訪問となった。ここで北川会長はもとより久住八郎幹事ほか栗山RCの皆さんに心から厚く御礼申し上げたい。終わって岩見沢東RCの坂田知樹会長が札幌在住とのこと。わざわざ拙宅まで送っていただく。その間の会話も楽しかった。



手づくりの豚汁を堪能（左から 関会員、磯見会員、中村会員、梅津会員—いずれも栗山RC）

ピチヤイ・ラタクルRI会長の説かれる愛。
わたしの主張するフレンドシップ。
そして、ヒトと環境の調和。

吉 本 勲 （深川RC）

神経科吉本病院

TEL 0164-22-7130（代）

広告

Q1; クラブ内では、次年度へ向けて各種準備をスタートしております。クラブ予算を作るに当たって留意すべき点を教えてください。

A1; クラブ予算を作成するに当たって、留意する点は大凡何点かあります。まず、予算作成は当該年度(会長エレクト)の理事会が作成します。(推奨クラブ細則第10条第5節)クラブによっては会計が作成するものと誤解しているクラブがあります。

会計の任務は総ての資金を管理保管し、毎年1回及び理事会の要求ある毎にその説明を行い、その他その職務に付随する任務を行うものであり、資金支出の妥当性及び適合性について意見を発言する立場でなく、会計事務の執行者として会計の任務です。

2点目は、収支計算書案を作成し、理事会承認のもと収支予算書を作成します。

一般会計には当然収入の部、支出の部に分かれますが、この一般会計はあくまでクラブ運営費であって、クラブが行う奉仕活動費に支出することは許されません。

3点目は、クラブで行う奉仕活動の原資が必要となりますから、予算書に特別勘定を設けます。(みなし予算)ですがニコニコBOXを財源として四大奉仕部門の実践に対する予算を作成し、支出配分をします。

ご存知のようにニコニコBOXは会員又はビジターよりの善意のお金ですから、一般会計に繰り入れたりクラブ運営のために使用することはできません。

一般会計予算を取り崩すことのないよう、理事会は常に会計より収支の報告を受け、予算執行することが肝要です。

Q2; クラブ内には、各種の会合(例会・理事会・協議会等)がありますが、それらの参加と意義について教えてください。

A2; ロータリーの原点は会合にあると言われております。

ロータリーの発足の原点も4人の会合から始まり、98年にも亘る発展の歴史には数え切れない多くの会合が原動力となって成長、拡大し今日に亘っております。

ロータリーの会合は、クラブの会合・国際ロータリーの会合等があります。今回はクラブ内の会合に絞ってお答えします。

クラブには次のような種々の会合があります。
1.例会 2.クラブ協議会 3.クラブ討論会 4.クラブ理事会 5.年次総会 6.家庭集会 7.委員会 8.親睦会 9.同好会

1. 例会

ロータリー・クラブ定款第5条第1節 例会には本クラブは毎週1回細則に定められた日及び時間に会合を開かなければならない。と明記されています。この例会は全世界ロータリアンに出席の機会を与えるものであり、クラブ会員は会員の義務と特典の第一に挙げられているのが例会出席です。例会出席について、初期のロータリーのバイブルを書いたガイ・ガンディカーはロータリーの例会は「Live wireの如し」と言っております。「電流の流れている電線の如し」と言っているのは、例会に欠席することは、電気が通じたり通じなかった

りするようでは、ロータリーの根本的な親睦が損なわれてしまうということです。又日本のロータリーの創始者米山梅吉は、ロータリーの例会は“人生の道場”であると言っております。“入りて学び、出でて奉仕せよ”まさにロータリーの例会出席無くしてロータリー無しであります。

2. クラブ協議会・クラブ討論会

この二つの会合はともすれば混同しがちな会合です。

まずクラブ協議会(Club Assembly)

会長は、クラブ会員から全幅の信頼を得て、クラブを代表すると共に、クラブ運営管理の責任があります。従ってその熱意、識見が反映され、年々クラブの面目が新たになります。

前年度踏襲形では、一年毎の会長交換の意味が全くなってしまいます。ロータリーの真の目的を達成させる為のクラブのプログラムと活動は、各分野の委員会活動に直結されており、夫々の委員会とクラブ運営が両輪のごとく円滑に推進してからこそクラブの活性化と活動実践が成されるのです。そのため会長の主宰で、理事役員、各委員の出席のもと、クラブ運営や奉仕活動に関する計画や実践の手法又実施状況について協議する公式な会合であります。

このように委員会活動とクラブ運営についてクラブ管理責任者と各分野の委員長と協議する会合ですから、新会員を始めとする多くの会員がクラブを理解する為に出席が奨励されております。

年間6回以上の開催が望まれています。

3. クラブ討論会、クラブ・フォーラム Club Forum

Forumという言葉はラテン語からきたものですが、古代ローマでは一般市民の集まる広場のことであり、それが公会所となり、裁判所を意味し法定の意味にも使われていましたが、今では普通討論会の意味に使われています。

ロータリーでは通常ロータリーの諸問題を検討する為参加会員の役職上の資格などを制限しないで、誰でも自由に討論出来る会合であります。

クラブ・フォーラムは必ずしも結論や決議を出すものではなく、各年度に四大奉仕部門について少なくとも各一回以上時間をかけて開催されることが推奨されています。

近來、このクラブ・フォーラムを例会時の卓話の時間を利用して、リーダーが独り独演し、討論もせずに終わってしまうことがあるようですが、それではフォーラムにはなりません。

開催にあたっては、フォーラム・リーダーを決め予め論題を掲げ、適当な資料を配布するなり、事前に予告しておく必要があります。

4. 理事会

理事はクラブ細則に定められており、理事会構成には会長、副会長、会長エレクト、幹事、会計、直前会長の7名が含まれております。(細則第2条)理事の定数によっては会員のなかよりさらに定数を満たす数の理事を総会で選出されます。

総会で決定した次年度理事会は1週間以内に会場監督を選出します。SAAを理事とすることも出来ます。理事会はクラブの最高の管理運営機関であり、その最終決定は提訴する以外に覆すことは出来ません。(定款第9条第3節)

理事会は細則第4条第4節に従い定例の理事会を開催しますが、理事会が成立する定数は過半数で過半数以下の理事の出席では理事会は成立しません。

臨時理事会は会長が必要ありと認めたと、又は理事2名の要求があった時に開催することも出来ます。

理事会の出席 理事の出席は勿論ですが、理事以外の出席例えば各委員長又は一般の会員は理事会の出席要求がない限り出席できません。理事会構成員には四大奉仕部門の委員長は理事の中から会長が任命することになっております。(細則第7条第1節(c))他の特定分野を担当する委員会(小委員会)は理事に選出されない限り理事会出席は出来ませんが、担当する委員会活動や予算執行について理事会に諮問する必要がある時は担当する常任委員会(四大奉仕)委員長又はクラブ幹事を通して出席要請をし、理事会の要求のもと出席することは可能です。但し決議権はもちません。※理事会の会合の出席はメークアップとなります。

定款第8条第1節(a)(6)

Q3; 昨年9月に実施された地区クラブ奉仕委員会のアンケートのなかに、インフォーマル・ミーティング(Informal Meeting 家庭集会)の設問がありました。当クラブでは実施していませんが、必要の是非と意義について教えてください。

A3; 家庭集会 Informal Meeting

家庭集会是元々炉辺会合Fire-Side Meetingが改称されたもので、この歴史は1937年に遡ります。当時シカゴクラブのメンバー、ハーブ・アングスターがシカゴ近郊のハイランドパークに移り住んだ頃その町にロータリアンが12人も住んでいることを知り、我が家に招待し大きな暖炉の前でロータリーのこと又ロータリー以外の世間話に花を咲かせた集まりが始まりました。

この楽しい集まりに集まったメンバーは夫々に彼らの家庭で開き始めそれをファイヤー・サイドミーティングと呼ばれ、ロータリーの素晴らしい要素となって定着したのです。

RI発行の「クラブ奉仕No.238-J」というリーフレットによれば、「クラブ内のロータリアンは、どうすれば一層良く知り合いになれるでしょうか? またどうすればロータリアンが自分達は真にクラブ活動の一部なのだと感じ、安心して持つことが出来るでしょうか? その答えは炉辺会合です」と答えています。

このファイヤー・サイド・ミーティングも、時と共にその目的が変化してきております。当初クラブでの協議会や討論会の会合より離れ、自由な話題で友好を深めるいわばロータリーの非公式のロータリアン任意の会合でしたが、RI理事会はクラブ情報委員会に極力出席を奨励し、クラブ会員増強の指針とし、情報集会所としております。

現在、家庭集会と呼ばれておりますが、2001年手続要覧には地区会員増強の項に情報集会……と記されております。

この点日本事務局に問い合わせたところ、英文ではInformal group Meetingとあり、ミーティングの内容や形式によって家庭集会と使い分けているようです。クラブの情報委員会の分野として新会員はもとより、会員に対して情報提供とクラブの融和促進の場として大いに活用すべきであります。

※毎月号のロータリーQ&Aは各クラブ又は各会員より寄せられた質問に対しての回答です。

追悼

富田嘉市 パストガバナー



富田嘉市先生の冥福を祈る

R.I元理事 竹山涼一 (1983-84 パストガバナー)



今年の冬はいつになく寒さが酷しく、立春を迎えた昨今も氷点下が続いております。丁度1月末日、富田パストガバナーご逝去の知らせが小林ガバナー事務所から入り愕然といたしました。早速三男に当たる富田孝夫さんに電話をかけて経緯を伺いましたが、3年程肺気腫のため入院されていたとのこと、一度もお見舞いに行けず残念でした。享年85歳富田さんは私より5年先輩のガバナーでしたから私達は殆ど同年令でガバナーをつとめたわけです。

加えて懐かしい思い出があります。伊藤元理事(1977～78当地区PG)が現ガバナー、富田先生がノミニーの時の地区協議会は私の札幌南クラブがホストで開催され、私はその時点でクラブ会長だったという事実です。(1978年6月3日 札幌パークホテル)

更にこの協議会の前日には東京で2度目の国際大会が39,800名という有史以来の参加者をもって開かれたのです。将にその後の推移を考えますとロータリーの盛況期といえるでしょう。

そしてその後一年間室蘭市からの初めてのガバナーをつとめた富田さんは私が知る限り力強くても温厚な、熱心な反面極めて謙虚なお人柄でした。私はその5年後に夢想だにしていなかった同じ任務につくのですが、ロータリーの世界でなければ知り合うことがなかったかも

しれない喜びを感じておりました。

最後に具体的な事例として地区協議会の時の「ガバナー就任のあいさつ」からその一部を引用いたします。

「私はガバナーと呼ばれますが、親切なカウンセラーであり、アドバイザーであり管理者にすぎません。だからといって私はオールマイティな超人でもなく、欠点の多い人間であり、能力や指導力に於ても限界があります。皆様方の中にはベテラン会員が沢山おられます。どうぞその方々の知識と能力と企画性更には意欲をお貸し下さい——」

富田先生。折にふれた御指導色々ありがとうございます。どうぞ安らかにお眠り下さい。

合掌

富田パストガバナーを偲んで

大橋康次
(1988-89年度 パストガバナー)



富田パストガバナーが1月30日にご逝去、2月2日室蘭市の慈心院本館で、お別れの会のご案内を受け、私は当日、小林ガバナーと一緒に、富田さんのご霊前に永久の別れと、心からの冥福を祈りご焼香してまいりました。

富田さんは、私より10年先輩のガバナーであり、ロータリーで初めてのお付き合いでありました。業界は異なりましたが、お互いに共通する話題があり、以来親しくご指導、ご交誼をいただきました。室蘭RCは、当地区第4番目、1936年(S11年)創立の名門クラブであり、経済界で著名な有力会員が多くおられました。その中で富田さんは、クラブ初めてのガバナーでありました。富田さんに思いもかけずガバナー・ノミニー候補の指名がありました時、企業人の立場から大変困惑されましたが、クラ

ブ全員から、また先任のパストガバナーお二人からも熱心に説得され、大決断で漸く引き受けられましたと述べられています。

富田さんのお人柄については、慶応義塾大学在学中、相撲部の勇将として活躍されたというエピソードもあり、その性格も豪放にして明快な、まさに快男児というべき風格を備えていると、親しいロータリーの友人が述べられています。

また経済人として、青年会議所の初代理事長をつとめ、また商工会議所の副会頭の要職に付かれ、室蘭地区経済界の重鎮として活躍されておりました。また庶民的なお人柄からも、多くの市民から慕われ敬愛されていたことをお別れの式場で、クラブの方々から伺ったのでありま

す。

私のガバナー年度(1988-89)、室蘭市は「鉄鋼不況」の年に当たり、この年度室蘭RC会員の提唱による「室蘭ルネッサンス」運動をクラブのプログラムに入れ、その運動推進に協力しました。「室蘭ルネッサンス」運動は、市民が主役となった新しい街づくりの方式で、企業、文化、女性の団体そして労働団体などの共鳴のもと、88年4月社団法人組織として発足させ、この運動のシンボルとして

測量山の鉄塔7基のライトアップを会員企業の協力を得て、88年11月常設点灯をスタートさせました。以来今日まで、室蘭市の希望の灯として続けられ、同市の観光名所として親しまれています。

以上のように室蘭RCの奉仕活動は、地域のニーズに応えた奉仕活動のあり方を示すものと深く思うものであり、このプログラムを指導された富田パストガバナーに心から、敬意を表するとともにご冥福をお祈りいたします。

富田嘉市さんを悼む

室蘭ロータリークラブ会長
牧野 嵩



富田さんが1月30日亡くなられました。1日も早いご快癒を祈っていた我々にとって誠に痛恨の極みであります。心不全のため2年前から室蘭市立総合病院に入院しており、85年のご生涯でありました。

富田さんは、小学校、中学校とも地元で、大学は慶應義塾で、卒業後は室蘭に帰り、戦時中は日本製鋼所室蘭製作所に勤務、戦後は室蘭産物、室蘭製氷冷蔵、室蘭通船の取締役、そして巖父の没後は三社の取締役社長に就任し、29年には室蘭魚菜市場を設立、取締役社長に就任した生粋の室蘭っ子であり、室蘭の農水産物の流通、港運関連企業各社の代表者として室蘭市の産業経済発展の基盤作りを担い、業界の発展、向上に寄与した功績は計り知れないものがあります。

団体歴や公職歴も多く29年から室蘭商工会議所常議員、51年から同副会頭を務めています。このほか、室蘭地方法人会会長、北海道法人会連合会副会長、社団法人北海道市場協会会長、全国魚卸売市場連合会会長、北海道ポートサービス協会会長など枚挙に暇がないほどで、この功績により、昭和52年に室蘭市公益功労者表彰はじ

め、同年春に、藍綬褒章、平成元年春に勳四等旭日小授賞を受けられました。

昭和40年、室蘭の白百合幼稚園の設立に際しては、発起人として率先協力し、初代園長退職の後は2代目園長として、入園式、卒園式には園児たちとおしゃべりをするのが楽しみで、その堂々たる体躯と白い髭から園児たちに「ケンタッキーフライドチキンのおじさん」と呼ばれて慕われていました。

ロータリークラブには、父上の富田作市さんの没後、昭和29年の入会で、各役員を経験後、昭和38年会長、続いて53年、室蘭からは初のガバナーに就任されております。ガバナー就任後のクラブ訪問に際しても、淡泊な人柄と気取らない語り口で人気を博していました。

室蘭の経済界に尽くされました生前のご功績を讃えつつ、富田大先輩を喪った悲しみを乗り越え、その遺志を継いで室蘭クラブの永遠の発展を誓う次第であります。

ご逝去を心からお悔やみ申し上げますと共に、どうぞ安らかにお休み下さい。

文庫通信

185号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

興味ある講演より

- ◎「男女の機微」 渡辺淳一 2002 2p (D.2530地区大会)
- ◎「上杉鷹山に学ぶ危機を乗り切る条件」 童門冬二 2002 6p
- ◎「日本人の心とことば」 岡野弘彦 2002 12p (D.2550地区大会)
- ◎「美しく力強いニッポンの再生への提言」 福岡政行 2001 6p (D.2650IM)
- ◎「日本語のみだれ」 阿川弘之 2002 12p (D.2690地区大会)
- ◎「21世紀の環境問題」 加藤尚武 2002 11p (D.2690地区大会)
- ◎「これからの東南アジアと日本」 恩田 宗 2001 24p (D.2620地区大会)
- ◎「戦後日本の忘れ物」 西原春夫 2002 9p (D.2810地区大会)

[上記申込先:ロータリー文庫(コピー)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

ガバナーとの対話 —アンケート(会員の自由意見)への回答(1)

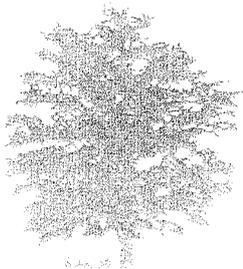
アンケートの個別項目についての結果は、月信2月号に報告した通りだが、会員から寄せられた自由意見を項目別に整理し、その中から回答の必要と思われるものについての若干の所感を加え、3月号(1)、4月号(2)の2回に分けて報告する。今回は「改革についての意見」、「新入会員の教育についての意見」、「クラブ運営についての意見」の3項目について紹介する。まずもってロータリアンのみなさんの率直なご意見に心から感謝したい。

改革について会員からのご意見

1. 時代的な状況によるためか活動の低迷、会員数の減が近年とみに感じられる。改革が必要になってきているのではないか。
2. ロータリーもそろそろ大改革をすべきではないか。
3. ロータリーだけでなく、ライオンズ、ソロプチ等もそうであろうが、各機構の活動・運動の効率化が必要。それが今後も発展をするために必要条件。ロータリーは改革のペースが遅い。
4. 会員の意見を良く汲み上げ、地区を改革していただきたい。
5. 古いものを残し、新しいものを取り入れる。
6. マンネリ化の打破が必要。
7. 古き良きものは残し、時代の新しいものは取り入れる。形式、見栄、格式ばかり重んじていると駄目だと思う。数合わせや役職選考も長い在籍と要領と企業の大きさや地位優先主義は、時代に合った魅力的ロータリーの発展は望めないと思う。21世紀は改革と融和の時代です。
8. 地区として問題意識をもって前向きに取り組む姿勢は多とするも、クラブの自主性を尊重されたし。地区あつてのクラブではない、クラブあつての地区であろう。
9. 動きが大廻りすぎて、無駄に思えることも多いのではないか。厳しい時代の今、残す部分と整理省略する部分の見直しが図られる時期にも来ているように見える。
10. 時代の進歩改革に合わせ、ロータリーも柔軟に変容改革するべきである。
11. このまま推移するならば、会員は激減するであろう。
12. 改革というのは「古いもの」をただ消すことではない。
13. 昨年、今年度の急激な変化に戸惑いを感じている。

回答：

以上が改革について頂戴した意見の全てである。改革に関する10数件の意見の殆どが、「改革が必要である」との立場で述べられている。最後に1、2の方が改革に躊躇する声があるが、全体としては「このままのロータリーでは心配だ」、何とかしようという声が聞こえてくるように思う。問題は、何をどのようにしていくか具体策についてのご提案をいただければと思う。くわしくはみなさまと話し合いの機会があればと念じている。



新入会員の教育について会員からのご意見

1. 友人の紹介で入会したが、自分の勉強不足もあるが、新人に対して先輩はもっと積極的にロータリーについて指導と交流があるような人間関係を密にして欲しい。ロータリーに入会したら自分で本を読み、自らが努力し、ロータリーを知ることだとは理解はしているのだが……。
2. 先輩の言葉遣いや表現のしかたで退会者が多く出るのを見たり聞いたりしていると、人間関係の不信が退会の大きな要因になっているような気がする。一言多いことは、冗談の通じない人に対する言葉づかい等、皆で注意し合いたい。
3. 新入会員に対しては、特別な配慮が必要。クラブで通用する言葉では理解できない場合がある。例会に参加することは出来るが、奉仕活動は一緒に行動してくれる人(誘うことが大切)がいて、初めて自ら行動できるようになると思われる。
4. 同じクラブ会員でも仲間意識が薄い。仲間はずれの人達が多く見かけられる。
5. 会員減少の中で、若い人の入会は良いと考えますが、先輩・後輩の礼儀が乏しくなっている。時代の流れか。
6. 入会2カ月なのでまだ良く分からないが、多くの方々に色々教えていただき、楽しく参加しています。今後とも宜しくお願いいたします。出来れば女性会員を増やしてください。
7. ロータリーへの魅力～昔はあったが、今は薄れた。経済情勢で最近では会員が少なくなった→数を埋めるために女性を入れる→増々魅力薄れる。その原因、数を増やそうとする為だ。ロータリーは数を増やして大きくなるべきか? 魅力を高めるべきか? ガバナーはいずれの道を選ぶべきか大局判断のときです。
8. ロータリーの存続は継続に努めるとともに、新会員の資質の向上には特に留意が肝要と考える。
9. 入会して日が浅く良くわからない部分が多い。

回答：

新入会員についての意見は10件ほどいただいた。いずれも新入会員を暖かく見守る気持が集まってきてうれしい。ここで気になるのは、新入会員になった喜びを表明している反面、新入会員がクラブ会員から何となく放っておかれる現状を垣間見ることである。新入会員に対する慈愛の心が、いまの我々に最も必要なものではないのだろうか。



播こう
慈愛の種



咲かそう
慈愛の花

クラブ運営について会員からのご意見

1. 本年から1業種5名まで入会できることになりましたが、現会員のロータリアンとしての向上が一番大切だと思います。ロータリーの原点に帰り、各クラブの例会の充実を図り、楽しいクラブ運営を心掛ければ自然と入会希望者も増えてくると思います。
2. RCの理念が好きだし、ライオンズとは少し違う団体と認識している。しかし、最近上からの押し付けのようなことが多々あるのが気がかりに思う。弱小クラブで大きな事は出来ないが、会員であることに誇りをもっている。最近出席率が落ちているのが気になるが、永遠に会が存続することを念じている。
3. ロータリーに定年はないが、人間は確実に年をとるものである。年をとったからといってロータリーから離れるつもりはないが、主力年代の人達の活動の邪魔にならないように気をつけている
4. 長い間入会していると何かと敬遠されがち。老兵は発言を控える方が良いような考えに最近変化してきているように思う。
5. 入会当時の若い頃と違い、古いロータリアンとなった今、マンネリ化している
6. 初心に帰ることが大事
7. まだ若いので例会での食事の量が少ない。余った食事はどうしているのだろう(笑)
8. 年々高齢者の部類に入るようになり、最近はロータリーの活動に対して積極性に欠けて来た様に思う。出来るだけ若い会員の皆様に協力してクラブ活動の活性化のために役立つよう努力していきたい
9. 情報委員会による指導をお願いしたい。
10. 例会を月2回に変更することを望む。
11. 例会を1週間に1度行うのは難しいのでは？
12. 週1回の例会設定は出席する側にとっては厳しいものがある。隔週、或いは月1回程度の例会設定が望ましい。
13. クラブの規模により、そのクラブの持っている力はそれぞれ大きな格差のあることはいうまでもない事だが、会員個々のロータリークラブに対する情熱が年々少しずつ薄れていく傾向にある。そんな事を含めて、もう一度クラブの再構築をしていく頃に入ってきたように考えられる。しっかりスクラムを組み、皆で“元気を出す事”を切に望みます。
14. 地区の事業としてロータリーの存在等をPRするものを取り入れるべき。
15. ロータリーの社会的認知をもっと広げるべきである。広報活動の強化が必要。
16. ロータリークラブの存在のPRが足りない。
17. ロータリーのPRを兼ねて入会者を一般公募してみても？
18. ロータリーは宣伝バタですね。もっと認知されるよう頑張らしましょう。
19. ロータリー活動の現状の姿をもっと世間に広報して存在感を高める必要があると思う。新しい会員の入会を誘うことにも、会の活動の活性化にも繋がると思う。
20. 地区の役員は地方からも登用すべきである。札幌中心の役員は地方の事情を知ることが出来ない。
21. 年功的な執行部選出ではなく、若手の登用を。
22. 入会して1年だが、一般的にロータリークラブの社会的認

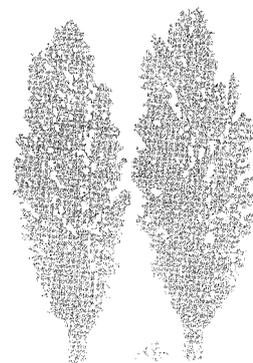
知は少ないと思います。どうすれば良いかよく分かりませんが、クラブ例会を年2~3回夜間にすれば良いと思います。

23. 4年前にロータリーに拾ってもらいました。この4年間で私は育ててもらいましたので、これからも自分に出来る限り協力し、いろいろ奉仕活動にも力を入れていきたい。
24. 今年3月より初めてロータリアンとなりましたが、異業種の方々とヒューマンを前提とした付き合いが出来、大変ありがたいと思っています。今後もよろしく願います。
25. 同業種でも積極的に入会を促すべき。
26. 例会のあり方をもう少し考えてほしい。また、どんどん若い会員を入会させ活性化を図ってほしい。
27. 「HPの活用を盛んに行ってください！」と会員にPRしたいです。
28. クラブがまとまるのが肝心なり。ロータリーソングがしらじらしく感じる。
29. ロータリーは報告の書類が多すぎるのでは？
30. 会員増強について、もう少しロータリーの内容や入会しやすいうようにしないと、なかなか入会者が減少してきている。
31. 人口減の地区、都市ではクラブの合併等が必要な時が来ると思う。
32. 数合わせでの会員増強は本来の主旨に反する。
33. ロータリーの存在は世界にとって大きな意義があると思う。しかし、余り組織の中の自由度が失われると会はマンネリ化する可能性がある。
34. 長年、RCの会員として決まったひととの交流をしないで多くの会員との会話、交流を深めたい。
35. 身勝手な考えを持っている人も居り、恥づかしい限りである。
36. クラブ中心の、クラブに活力が出るように、地区は指導しているであろうか。小林年度に期待している。
37. 最近はスピーチを聞く姿勢が大変良くなった(私語が少なくなった)。音楽を聴くときもこの調子で!

回答：

クラブ、運営についての意見は極めて多岐多彩にわたる。その内容を読んでいただくことで、ロータリアンの抱える問題の全貌が見えてくるように思われる。その中で、ロータリーの社会的認知のPRをもっと積極的にするべきであるという意見があった。また、会員増強は質か量かの問題について結論を出せという意見も私には心に重く残った。双方とも大事なことであるが、もっとも大事なことは我々自らを磨くことではないだろうか。質的向上があれば、おのずと量的向上が期待できるというパターンが最も望ましいと考えている。

いずれも貴重なご意見本当に有難うございました。



第8グループ会員の夢と希望

第8グループのIM(2003.2.16開催)のグループミーティング「ロータリーの夢・未来を語ろう」の「夢カード」より、いくつかピックアップしてみました。率直なご意見誠に有難うございました。

※注()は所属クラブ、ただしロータリアンのお名前は省略

1. アポイの高山植物保護への援助(様似)
2. 5つのクラブが合併したらどうなるか?日高RC(仮称)として、1つは大きな事業をしてはどうだろう(合同で)。(様似)
3. 「ロータリー楽団」を作ってみては?地区大会でも国歌やロータリーソングの斉唱がありますし、演奏家を呼んでのアトラクションの時もあります。そんな時、自前の演奏で喜んでもらえたら。(様似)
4. 高校→大学→社会人といった現在の教育制度に満足せず、実務を伴った教育を実践するために海外で勉強する子供達が増加している。この子供たちにロータリーの奨学金制度(4~5年間)が必要だと思う。各町単位ではなく、今日集まっている5町で合同の制度が良いのではないかと。(様似)
5. 会員の職業構成が都市部と郡部では異なるためか、活動計画は都市的傾向になっているように思う。(えりも)
6. 多くの異業種のトップが週1回集まるのはロータリーだけ。地域の発展のためにお金ではなく「知恵」の提供、提言で奉仕し存在感を高めてはどうか。(えりも)
7. ロータリアンの会員増強ですが、だんだん少なくなってきています。私なりに原因を考えてみますと、①お金がかかる ②ロータリーの内容を説明するのが大変 ③ロータリーの意義や目的、希望がわかりづらい ④毎週の例会は大変である ⑤会員を増やすことは大変であるが、はっきりわかりやすい内容のものを作ってほしい。(浦河)
8. 国際ロータリーは、世界人類平和のために奉仕の精神を柱として常日頃努力を重ねているところであります。戦争の名を借りた殺人行為が地球上の数カ所で行われ、罪の無い大勢の弱者が犠牲になっていることを思うと正義の定義に自身を失います。50数年前の愚かで悲惨な出来事を忘れ去ったかのように再び轍を踏もうとしている人達が存在することは誠に残念なことであります。我々ロータリーは、これに反対の大声を上げ行動を起こすことも世界平和を切望するものとして有意義なことではないでしょうか。又、この現実を子供達にも理解してもらえるような方法が、ロータリーとして考えられないものであろうか。(浦河)
9. 第8グループ全体のテーマを1つとした事業の立ち上げを。(浦河)
10. 現在、会計と出席委員長を担当している中で特に思うことは、会費に占める地元還元額が少ないことである。種々の寄付、負担金がどのように活用されているのかわからない部分が多い。RCに対しては特に夢はないが、もっと身近な事に対する金銭支援、ボランティアを再考したい。(三石)



11. クラブ例会の在り方について:隔週にして、例会時間を増やし内容充実してはどうか。金のかかる団体だと思ふ。奉仕は惜しまないが、寄付など多すぎる。もっと整理すべきではなからうか。地区大会も形式的、セレモニー的になりすぎる。懇親会は省略しても良い。登録料を減らすことを考える。(三石)
12. RIテーマ「慈愛の種を播きましょう」を今一度見つめると、本当に慈愛に満ちた種を播いているのだろうか。マンネリ化になって、その種が老朽化して、それ自体から芽が出てくなくなっているのではないかと。真実の目を自己に問い直し、真実の新しい種を播きたいものである。(三石)
13. ロータリーの未来を思う時、やはり会員増強が求められますが、当町にはライオンズクラブがありまして、このクラブでは会員増強を行うとき、ロータリーは毎週例会があるが、ライオンズは月2回で「楽なクラブ」ということを説明して会員の増強を図っております。今後ロータリークラブの例会も毎週は大変ですので、月2回にされた方が未来のためにも現会員のためにもよろしい事ではないかと考えます。(静内)
14. 奉仕の在り方として、自クラブ内だけの活動にとられず、同一地域(同ブロック)内で協同で出来る奉仕活動を模索してみてもどうか。(静内)
15. 静内にはロータリークラブのほかに、ライオンズクラブ、国際ソプロチミストがありますが、あまり交流があるとは言えないのが現状です。交流を深めていければもっと社会奉仕にもつながると思います。(静内)
16. ロータリークラブは、世界163カ国、クラブ数31,256、会員数1,243,317人と多くの仲間がいるのに何故世界平和を訴えないのか不思議です。世界平和を訴えることは政治活動なのでしょう。(静内)
17. 奉仕(寄付行為)活動について:世界ロータリー規模でなく、日本独自で東南アジアへポンプ、本等の援助活動をしてはどうか。(静内)
18. RCの会長、幹事は大変な任務ですが、大先輩のRC会員でも引受けない会員に是非とも引受けてもらえる方法はないのでしょうか。会長、幹事を経験したときには、今までと違ったロータリーが理解できるように思いますが。(静内)
19. ガバナー公式訪問について:ガバナー公式訪問は、従来のように各クラブに訪問してほしい。クラブ合同では時間的にあまり建設的な意見が出にくい。年次大会の開催について:春にやったり、秋にやったり、時のガバナーの考えでやっている感がする。歴史的にも慣習的にもどちらかに決めて継続的にしてほしい。
20. 青少年育成について:第8グループが1つになって共通な事業を、日高管内に表現していける事業をやってはどうか。(静内)
21. ガバナー公式訪問(合同例会)とIMを一緒にする。このことにて経費が節減できると思う。(静内)



回答：

まだ他にもたくさんのご意見をいただき、有難うございました。率直なご意見には感謝のみです。

ただ、ガバナー公式訪問はRIから新しく提案されているDLP(地区リーダーシッププラン)に沿ってすすめているものです。もし、各クラブ訪問の希望があるときは、クラブ会長からお申し出られたらお伺いしたいと思います。

また、地区大会は2001～2002年度まで春の開催でしたが、2001～2002年度からは秋の開催となっております。時のガバナーの考えで年毎に変わることなく、これからは秋の開催が続くと思います。その他の夢と希望については機会をみて話し合いたいと思います。なお、関連のものの一部はすでに月信でお答えしてありました。

地区活動 紹介

今年もスウェーデンヒルズの雪の山荘で



国際親善奨学生オリエンテーション成功裏に終了

国際親善奨学金委員会
委員長 土橋信男

今年の7月から来年の6月にかけて9カ国に派遣される国際親善奨学生11名の合宿オリエンテーションが、スウェーデンヒルズの道新研修センターで2月1日、2日に行われた。

小林ガバナー始め、15名のロータリアンが参加。また、かつての奨学生であった学友6名も参加して、それぞれの経験からの有益な助言や、質問への応答があった。

この合宿オリエンテーションは昨年から行われ、今年が2回目。昨年道新研修センターで行われたが、何しろ当別は有名な豪雪地帯、1日目大雪の後で地吹雪の中を、予定された32名全員が集合、午後2時から翌日1時まで、留学に備えての必要なガイダンスが、財団のオリエンテーション資料や、先輩からの助言・メッセージ、そしてロータリアンからの励ましなど盛りだくさんの内容で行われた。



まず小林ガバナーから、奨学生に正式に決定されたこと(米国ロータリー財団本部から、奨学生決定の正式通知は1月になされた)へのお祝いと、留学に関してのガバナー自身の経験からの貴重なアドバイス、そして国際親善ロータリー奨学生と

してのありがたさについてあらためて期待を込めた挨拶があった。

ついで、奨学生全員が、どの国へ何を学びに行くのかについて、自己紹介を兼ねて説明があった。



本年度の留学国は、アメリカ(2)、イングランド(2)、イタリア、オーストラリア、タイ、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、そしてフランス、と実に多彩で、特にタイとトルコにはこれまでに本地区から派遣された奨学生はいないので、初めての派遣国となり、本人たちがホストロータリークラブを探し、また研修機関を探さねばならないという、まことにチャレンジングな課題を負っているの、いい経験ができるのではと期待されている。

次に、国際親善奨学金委員会の二人の委員(瀧川、戸部アナマリア)からの留学準備への助言があり、また参加した6名の学友からそれぞれ楽しかった、また失敗した体験談があったが、いずれもロータリークラブの受け入れがあることのよさがこのプログラムの強みであるとの報告で、これから出発の準備をするために有益な助言となった。



夕食後の交流懇親会は和室で和やかに行われ、夜の更けるのも忘れたほどだった。

翌日の朝食、昼食は、高橋委員と学友の新発田さんの指導のもと、奨学生全員が準備をして、美味しくいただくことができた。

将来の北海道や日本の担い手となるこれら奨学生の、実り多い留学ができるように、これから出発するまでの期間に引き準備ができることを願ってやまない。



第23回 札幌スキーマラソン参加

新世代委員会
委員 宮崎善昭



恒例の札幌スキーマラソンが去る2月9日(日)に開催され、新世代、ロータリアンが参加し冬の一日に汗を流しました。

出場したのは新世代がインターアクト、ローターアクト、交換留学生、ROTEX、財団学友、米山奨学生の合計29名、ロータリアン5名、この他に伊藤長英新世代アドバイザーの奥様は苦小牧から、細川好弘インターアクト委員長は静内から駆けつけられ応援団が17名で総勢51名になりました。



8時30分にスタート地点の札幌ドームに集合し全員5kmコースにエントリーして自己記録に挑戦、遠藤正之バスト・ガバナーも見事に完走されました。因みに最も早い人はスタート後20分でゴールイン、最もゆっくりの人は1時間20分くら

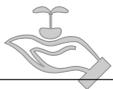
いでした。参加者はそれぞれ皆マイペースで歩くスキーを楽しみました。



スキーマラソンの後、ジンギスカンを楽しむインターアクターたち

スキーを楽しんだ後は近くの羊ヶ丘展望園でジンギスカン・パーティーでした。参加者と応援団が一同に会し伊藤長英新世代アドバイザーのご挨拶、遠藤正之パスト・ガバナーの乾杯で始まり参加者の健闘を讃え合い、新世代間ロータリーの交流を行いました。

世界理解と広報



広報委員会 委員長 城木浩一

世界理解の推進と広報

2月は世界理解月間ですが、1905年2月23日にシカゴで最初の例会が持たれたことから、ロータリーでは2月23日を「世界理解と平和の日」と定めています。

第二次大戦では多くの方が戦禍をこうむり、二度と戦争はごめんだと心から誓いました。あの戦時中に、私達は諸外国をどのように理解していたのでしょうか。血の滴る肉を喰らう鬼畜米英と表現しました。「冒険団吉」に描かれた南洋の人々。「のらくろ」に描かれた東洋の人々。日本人以外を全て蔑視する気持ちが満ち溢れ、人々を戦争に駆り立て易い理解度でした。何故、もっと

正しい報道がなされなかったのか。これは**広報の問題**です。戦勝国のアメリカにも先住民族を野蛮人とする「西部劇」や「ターザン」の映画がありました。人種によって良い人、悪い人を決めると映画の筋は組み立てやすく、面白いのですが、最近は見かけません。お互いに同じ人間として、相手の立場に立って考えることが出来るようになったからでしょう。

国際レベルの教育および文化交流活動と広報

ロータリーでは、世界理解を深めることが、国際平和に至るとの基本理念を持っています。青少年交換事業、国際親善奨学金、GSE、米山奨学金等、諸外国の人々に日本を知ってもらい、我々も国際的な親睦と視野を広げようと色々な事業に努力しています。但し、これはクラブの会員だけが国際理解を深めれば良い訳ではありません。ここに**地域社会に対する「広報」の意義**があります。

偽善と広報

ロータリークラブは、国際奉仕ばかりではありません。深い人間愛の上に築かれた高い職業倫理を掲げ、生き馬の目を抜く経済界で百年間にわたり、堂々と奉仕の理想を仕事の上で実行に移して参りました。これが広報されて更に多くの市民の共感を呼び、会員の信用は増し、クラブは世界中に広がりました。世界からポリオを駆逐する運動も効果的に実施されて来ました。ほどこしをする時は、右手がすることを左手に知らせるなど言われます。「慈愛の種を播こう」とする今日、それを十分心得た上で、それでも私達は人類への奉仕を広げるため、広報に努めます。マフィアが寄付をするのとは、わけが違います。**広報によって**

ロータリーの旗色を鮮明にし、周囲の理解と共感を得て、活動が円滑になされることを目的としています。

人間が犬をかじった話

ロータリークラブが奉仕活動を行っても、報道機関にとっては当たり前のことで、ニュース性がありません。犬が人間をかじってもニュースにならぬが、人間が犬をかじればニュースになります。記者が関心を持つような小細工をするのは、偽善的ですが、なんらかの味付けが必要です。

広報の役割

新聞やテレビは大変力があります。しかし、対外的広報は必ずしも大新聞やテレビばかりではありません。町内会の新聞は如何でしょうか。私もホームステイで預かった高校生は、町内の新年会や行事に連れ出されました。お互いに親睦が深まり、世界理解につながったと思います。町内会新聞の記事には取り上げられました。地域の片隅ではありますが、片隅の小さな広報が集まって世論を作ります。

対内的広報

各クラブでは定款の第4条に掲げるクラブの綱領(目的)に従って、奉仕の理想を基礎にした有益な事業を計画致します。特に会員が1~4項を達成出来るように、これを鼓吹、育成するために行うのがクラブの事業です。

どのような事業が計画され、実行されるのかガバナー事務所気付で広報委員会へご教示下さい。他のクラブで参考に出来るように、事例集を作って対内的広報をする予定です。今後とも広報のことよろしくご願ひ申し上げ、深川ロータリークラブの益々のご発展をお祈り申し上げます。

小中学校で講義を してみませんか

地区幹事(子ども奉仕委員会設立準備委員)
米山道男

小中学生に対してロータリアンができることをしたい、ロータリアンは皆立派な職業人だから自らの職業を介した貢献から始めよう、という考えが全国の各ロータリー地区で広がっています。

昨年9月東京で、前川ガバナー会議長の主導による「ガバナー会青少年育成委員会(JYDC)」が発足しました。昨年11月の地区大会記念フォーラムでも前川議長が述べられていたように、この委員会の目的は、ロータリアンが子どもの育成にもっと関わっていかうとするものです。具体的活動は、①ロータリアンによる小中学校での講義、②小中学生によるロータリアンの職場訪問や職場での研修、③ロータリアンが小中学校に評議員として参加、などです。

子どもは多くの可能性を秘めた素晴らしい存在ですが、自分を確立しようと悩んでいてそれを様々な形で発信しています。私達は発信されたものを子どもの立場に立って受け止めなければならないと思います。一方、子どもは澄んだ眼で世の中をしっかりと見えています。子どもは、単なる保護の対象ではなく、一緒に考え行動する強力なパートナーです。そして私達がいなくなった後も、子ども達には、そのまた子ども達のためにも、逞しく正しく生きてほしいと思います。そんな願いを込めて、今、私達が子ども達のためにできることをしたいと考えます。

当地区におきましても、この問題に取り組むため、昨年10月以来、小林ガバナー、佐藤ガバナーエレクトを中心に見学を重ねてきた結果、次年度、地区に「子ども奉仕委員会」を新設することになりました。この委員会では、皆様のご

協力のもと、当面、小中学校の子ども達を対象に、ロータリアンが出向いて講義をしたり、ロータリアンの職場に子ども達を招いて見学や実習をしてもらおうというような活動から始めたいと考えています。

このような交流を通じて、子ども達は、今まで知らなかった世界を知り、もっと知ろうとする興味が湧いたり、将来の目標を見つけたりすることができるかも知れません。一方、ロータリアンのほうも、子ども達の素晴らしい感性に触れ、自分や社会を考え直す契機となるかも知れません。

次年度には、地区全体に活動を広げるため、あらためて、講義と職場訪問についてのご登録をお願いしたいと考えていますが、今年度は、その先導的な試みとして、まず、札幌市教育委員会のご理解のもと、札幌市立の北九条小、幌北小、白楊小、北辰中でロータリアンによる講義を実施してみたいと考えています。

ロータリアン各位におかれましては、是非ご協力いただきたくお願い致します。ご協力いただけます場合は、地区内のガバナー補佐および第4・第5グループ内のクラブ会長には既にお送りしてありますが、「小中学校での講義」02/03年度協力者登録票」にご記入の上、ガバナー事務所まで郵便またはFAX(011-222-1526)にてお送り下さい。「登録票」が入手できない場合はガバナー事務所に御請求下さい。

来る4月から実施予定のため、準備の都合上、できるだけ早く登録していただければ幸いです。



子ども奉仕委員会設立準備委員会委員と懇談中の小中学校の先生方(2003.2.4)

第1回

ワークショップのご案内

テーマ：「ロータリー情報の今日と明日」

日時：平成15年3月12日(水)

開始：午後1時 終了：午後4時

会場：北海道厚生年金会館(札幌市中央区北1条西12丁目)

会費：出席者1名につき2,000円(お茶代含む)

※開催当日申し受け致します

出席者：2510地区広報委員、地区IC委員、地区ロータリーの友委員、クラブ会長、クラブ雑誌委員長、クラブ広報委員長、ガバナー、ガバナー補佐、地区幹事、月信編集委員、その他有志(注)今回のワークショップは義務出席ではありませんが、ワークショップとして討論する機会ですので関心のある方のご参加をお願いします。

申込締切：平成15年3月4日(火)

※参加希望者はガバナー事務所(Fax. 011-222-1526)までFAXでお申し込み下さい。

主催：第2510地区情報関連委員会(広報委員会・IC委員会・ロータリーの友委員会)、『月信』編集委員会

13:00~13:05 挨拶

2510地区ガバナー 小林 博

◎第1部:基調講演

司会 地区ロータリーの友委員会委員 斎藤元護(札幌南)

13:05~14:00 「情報とコミュニケーション」

二神典子氏(「ロータリーの友」編集長)

14:00~14:20 休憩

◎第2部:ワークショップ

コーディネーター 地区ロータリーの友委員会委員長

佐藤 公(札幌北)

話題提供

14:20~14:40 「国際理解と広報」

地区広報委員会委員長 城木浩一(札幌北)

14:40~15:00 「クラブ雑誌委員会の挑戦」

地区ロータリーの友委員会委員 山名善久(札幌南)

15:00~15:20 「電子メールの活用について」

地区IC委員会委員長 山田信夫(苫小牧北)

15:20~15:40 「月信のあり方について」

地区『月信』編集委員会委員長 竹原 巖(札幌北)

15:40~16:00 総合討論

第2回

ワークショップのご案内

友情交換委員会

委員長 金井重博

地区幹事

国別部会担当 米山道男

国際奉仕委員会

委員長 青木功喜

本年度後半における当地区の目玉事業として様々なワークショップ(参加者が自主的に運営・活動する方式の研究集会)が開催または企画されています。

また当地区では、『ガバナー月信』2月号(第15頁、「国別部会」へのご協力を)でお知らせしましたように、友情交換委員会が中心となって、「国別部会」プログラムの準備を始めています。これは、同じ外国が好きなお仲間どうしが集まって自主的に自由に勉強・交流・支援などの活動をしようとするものです。

この「国別部会」プログラムを今後どのように進めていくかについて、会員の皆さんと一緒に考えたいと思い、「国別部会」に関してもワークショップを右記の通り開催することにしました。多くの会員の皆さんの積極的な参加を期待します。

なお、現在、部会結成へ向けて、会員のご協力をいただける国々は次の通りです。これ以外の国々についても、地区友情交換委員会あてに、部会結成をご提案いただきたく思います。歓迎します。

・アジア・太平洋地域：中国、モンゴル、フィリピン、ベトナム、タイ、シンガポール、ミャンマー、ネパール、スリランカ、オーストラリア。

・ヨーロッパ地域：フィンランド、ロシア、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン。

・南北アメリカ地域：アメリカ、メキシコ、チリ

「国別部会に関するワークショップ」開催要領

1)日時：2003年4月12日(土) 午後6時~8時

2)場所：札幌パークホテル(札幌市中央区南10西3)

3)テーマ：「国別部会：当面の活動計画と今後の展望」

4)目的：国別部会の活動の今後の発展を期して、各国別部会の具体的活動計画案を披露し合い、この活動の展望と問題点を話し合います。

5)プログラム：

・開会の辞 国際奉仕委員会委員長 青木功喜

・挨拶 ガバナー 小林 博

・話題提供

「国別部会という発想」 地区幹事 米山道男

「国別部会の運営」 友情交換委員会委員長 金井重博

「各国別部会の活動計画案」

各国別部会設立準備委員会世話人

・質疑応答と自由懇談

・閉会の辞 モンゴル部会設立準備委員会世話人 森本正夫

6)参加申込：3月31日(月)までに、ガバナー事務所(FAX:011-222-1526)まで、①氏名、②所属クラブ、③関心のある国名(複数可)、④連絡先電話・FAX番号を、FAXでお送り下さい。

7)参加費：2,000円(弁当代その他。当日お支払い下さい。)

8)主催：友情交換委員会・地区幹事会・国際奉仕委員会

9)問合せ先：ガバナー事務所(電話：011-219-2510)、金井(携帯：090-8909-5331)、米山道男(携帯：090-7058-5520)。

ワークショップ企画案を募集中!

本年度後半における当地区の目玉事業として様々なワークショップ(参加者が自主的に運営・活動する方式の研究集会)が開催または企画されています。

ガバナー事務所では、現在も、ワークショップの企画案を募集しています。クラブ、数クラブ合同、会員個人、会員グループ(クラブ内、クラブ横断的)など、会員はどのよ

うな形ででもワークショップを主催することができます。実施支援や経費負担についても、ガバナー事務所でご相談に応じています。詳細は、『ガバナー月信』1月号第4頁の記事「ワークショップ開催」を参照して下さい。連絡先：地区幹事(ワークショップ担当)米山道男(携帯：090-7058-5520)。

アンケート調査の結果と分析 (第1回)

2002年9月にクラブ奉仕委員会が地区内3,484名の全会員を対象に実施した、アンケート調査の集計結果は既に、『月信』2月号で報告済みですが、地区全体及びグループ別の集計結果に特徴などについて、若干の分析を加え、「調査の概要」から設問7の「同好会への参加」までを今月号に、残りの項目についても順次掲載の予定です。

調査の概要

- | | | | |
|--------------|----------------------|------------|---------------|
| 1. 調査時期 |2002年9月 | 5. 調査主体 |クラブ奉仕委員会 |
| 2. 調査対象者 |3,484名 | 6. 調査結果の集計 |ガバナー事務所 |
| 3. 調査方法 |悉皆調査・配票調査 | 7. 調査結果の分析 |クラブ奉仕委員会 |
| 4. 有効回収票・回収率 |1,758名 (50.46%) | | |

(回答率)

質問	回答項目	グループ													
		地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
回答率	会員数	3,484	189	266	384	466	466	360	209	183	281	247	246	187	
	回答者数	1,758	113	133	218	200	209	168	130	98	127	111	139	112	
	回答率	50	60	50	57	43	45	47	62	54	45	45	57	60	

◎アンケート調査時点の地区会員数3,484名に対し、回収回答者は1,758名の50%の回答率であり、アンケートの目的について徹底されなかったのか、第2710地区の会員数(3,982名)回答者(2,882名)回答率(72.4%)に比べるとかなり低いと言わざるを得ない。

◎グループ別の回答率は第7(62%)第1・12グループ(60%)と上位で、逆に第4(43%)第5・9・10グループ(45%)と低く、札幌・函館地区の都市型クラブの回答率が低く、地方クラブの回答率が高いという結果となって現れている。

1. 地区大会への参加

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	1. 地区大会への参加	いつも参加	グループ													
			地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	いつも参加	49	857	63	69	125	81	89	81	74	61	66	36	52	60	
			49	56	52	57	41	43	48	57	62	52	32	37	54	
	ときどき参加	35	613	26	36	55	74	87	61	60	29	39	48	58	40	
			35	23	27	25	37	42	36	46	30	31	43	42	36	
	未参加	15	270	9	26	32	37	33	25	15	7	22	27	27	10	
			15	8	20	15	19	16	15	12	7	17	24	19	9	

◎地区内会員の地区大会への参加状況は、いつも参加(49%)と時々参加(35%)で、未参加は15%となり比較的参加しているものと思われる。しかし、回答率50%のなかで270名もの会員が地区大会にほとんど参加したことないというのは、ロータリーの綱領から見ても疑問に思う。

◎グループ別で見た参加状況は、第8グループ(92%)を筆頭に第12(90%)第1(89%)が参加率が高く、未参加は第10グループ(24%)第1(20%)第4・第11(19%)が高くなっている。

地区大会への参加が低い第10・第1グループは遠隔地のせいもあると思われるが、主に札幌開催となる地元の第4グループの参加率が低いのは気になることである。

2. 奉仕事業への参加

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	2. 奉仕事業への参加	よく参加	グループ													
			地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	よく参加	28	488	28	37	56	48	31	41	64	46	36	29	36	36	
			28	25	28	26	24	15	24	49	47	28	26	26	32	
	参加経験あり	44	769	37	56	87	88	99	79	47	35	68	47	69	57	
			44	33	42	40	44	47	47	36	36	54	42	50	51	
	未参加	26	461	32	38	71	58	79	44	18	16	23	35	31	16	
			26	28	29	33	29	38	26	14	16	18	32	22	14	

◎地区内全体の参加状況は、28%の会員がよく参加し、参加した事があるは44%である。合わせると72%の会員は奉仕事業にかかわっているが、参加したことがない26%・461名もの会員には、奉仕活動への理解と喚起が必要と思われる。

◎グループ別で見た場合、都会型のグループで不参加が多く奉仕活動への関心の度合いが低く、地方グループの参加が比較的高いのはクラブ全体で取り組もうという現れと受け取れる。

3. インフォーマルミーティングへの参加

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	3. インフォーマルミーティングへの参加	原則参加	785	54	57	93	113	108	78	63	55	53	43	68	57
			45	48	43	43	57	52	46	48	56	42	39	49	51
		ときどき参加	596	27	48	72	66	73	65	43	26	52	42	45	37
			34	24	36	33	33	35	39	33	27	41	38	32	33
		参加しない	217	13	20	37	15	25	15	20	3	15	23	18	13
			12	12	15	17	8	12	9	15	3	12	21	13	12

◎インフォーマルミーティングへの参加は、原則参加45%・ときどき参加34%・参加しない12%という結果になっており、比較的参加率が高いように思われる。

◎グループ別で見ると第4グループと第8グループの参加率が高く、第10グループの参加率が低いのが特徴である。

4. 会報・月信・友の購読頻度

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	4. 会報・月信・友の購読頻度	よく読む	621	32	48	89	68	59	64	61	27	51	35	47	40
			35	28	36	41	34	28	38	47	28	40	32	34	36
		ときどき読む	957	59	81	116	104	125	92	59	60	64	59	73	65
			54	52	61	53	52	60	55	45	61	50	53	53	58
		あまり読まず	153	8	7	8	25	27	11	11	10	12	14	17	3
			9	7	5	4	13	13	7	8	10	9	13	12	3

◎購読頻度については、会報・ガバナー月信・ロータリーの友を一緒にした設問に問題も残るが、会報は一番身近な情報誌なだけによく読まれていると思われる。ガバナー月信・ロータリーの友については、ときどき読むと答えた会員が多いと想像される。しかし、本年度の月信は大多数の会員が購読し身近な情報が提供されているので従来に比べると良く読まれるようになって来た感じがする。

5. メーキャップの経験

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	5. メーキャップの経験	ほとんどない	563	43	51	75	32	24	64	44	49	60	43	36	42
			32	38	38	34	16	11	38	34	50	47	39	26	38
		ときどきある	965	45	69	106	118	153	91	75	44	61	56	85	62
			55	40	52	49	59	73	54	58	45	48	50	61	55
		かなりある	196	10	11	33	46	32	12	10	3	6	12	16	5
			11	9	8	15	23	15	7	8	3	5	11	12	4

◎メーキャップの経験は3・4・5・10・11グループが他のグループに比べて多くあり、地方型のクラブと比較し例会場が近接しメーキャップの機会に恵まれているせいかも知れない。

6. 会員増強への協力

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	6. 会員増強への協力	積極的	355	27	27	51	33	33	41	32	21	37	6	22	25
			20	24	20	23	17	16	24	25	21	29	5	16	22
		協力したことあり	898	46	73	112	101	99	90	70	50	60	68	71	58
			51	41	55	51	51	47	54	54	51	47	61	51	52
		推薦・紹介なし	473	25	31	50	61	77	36	26	26	29	38	46	28
			27	22	23	23	31	37	21	20	27	23	34	33	25

◎会員増強への協力については、地区内会員の20%が積極的に協力・51%の方が協力したことありと答えたが、一度も推薦・紹介したことがない会員が27%もいることが分かった。グループ別の特徴を見ると、一度も推薦・紹介したことがない会員が多いグループは第4(31%)・第5(37%)・第10(34%)・第11(33%)が高く、逆に積極的に協力の高いグループは第1・第6(24%)・第7(25%)・第9(29%)であり、ここでも地域性が良く現れている。

7. 同好会への参加

(上段：人数、下段：%)

クラブ活動について	7. 同好会への参加	積極的	551	42	50	69	54	50	43	48	44	56	31	36	28
			31	37	38	32	27	24	26	37	45	44	28	26	25
		ときどき参加	821	38	68	111	99	114	84	55	37	59	44	61	51
			47	34	51	51	50	55	50	42	38	46	40	44	46
		参加経験なし	335	17	13	36	43	45	34	25	16	10	35	30	31
			19	15	10	17	22	22	20	19	16	8	32	22	28

◎ロータリーの奉仕と親睦の2本柱である親睦を高めるための一つ的手段として同好会活動についてのアンケートに対して、積極的参加が31%・時々参加が47%であり、合わせると78%の会員が参加していることになる。

◎グループ別をみると、積極的参加は第8グループの45%を筆頭に第9(44%)・第2(38%)・第7(37%)と続く、参加経験なしは第10グループの32%・第12(28%)第4・5(22%)となっている。

○オーストラリアからの受け入れ学生紹介○

青少年交換委員会 委員長 清水慧子

Carita Davies カリタ・デイヴィス	Jessica Baldock ジェシカ・バルドック	Jo Bayliss ジョー・ベイリス	Mira Ponti ミラ・ポンティ	Sharnee Morgan シャーニー・モーガン	Teagan Reynolds ティガン・レイノルズ
					
オーストラリア9650 札幌西RC 札幌日本大学高校 1986/11/13生 16才	オーストラリア9800 札幌手稲RC 札幌山の手高校 1985/6/15生 17才	オーストラリア9650 札幌南RC 札幌南高校 1984/10/26生 18才	オーストラリア9550 札幌東RC 札幌稲雲高校 1985/1/30生 18才	オーストラリア9710 札幌はまなすRC 札幌新川高校 1987/6/16生 15才	オーストラリア9640 札幌北RC 札幌国際情報高校 1986/8/27生 16才



後列左から、シェリル（カナダ5360地区、静内RC）、マッティ（フィンランドマルチ地区、札幌西北RC）、オスカー（メキシコ4180地区、札幌南RC）、メグ（アメリカ7150地区、苫小牧北RC）、シャオシェン（台湾3480地区、札幌南RC）、ガブリエル（アメリカ7170地区、上磯RC）、セレス（アメリカ5100地区、札幌東RC）

2003冬季キャンプ

NISEKO in ROTARY

青少年交換委員会

交換来日留学生と派遣候補学生、クラブ関係者及びホストファミリーを囲んで、国際交流、文化交流を深め語り合い、ゲレンデスキー、スノーボード、温水プール、カラオケ、ダンス等楽しいひとときを過ごしたいと考え、このキャンプを企画致しました。

このキャンプでは、今年7・8月出発予定の派遣候補学生のオリエンテーションを含んでおります。（オリエンテーションの出席

は派遣候補学生の義務です）

ホストファミリーの負担軽減と、クラブ関係者やロータリアン、家族の参加でよりいっそうの親睦を深めて頂き、青少年交換事業の素晴らしさを、体験して頂ければ幸いです。

ROTEX（帰国組）も加わって一年の体験話に耳を傾けよう。皆さんの御参加をお待ちしております。

記

日時 平成15年3月22日(土)～23日(日)

場所 『ホテル・ニセコアルペン』

<http://www.niseko-alpen.com>

温水プール・サウナ他

ホームページ参照

倶知安町山田204

TEL 0136-22-1105

地区青少年交換委員会

委員長 清水慧子

ブリスベン国際大会と「日本人親善朝食会」へのお誘い

国際ロータリー理事 板橋敏雄

国際ロータリー理事 菅生浩三

国際ロータリー理事エレクト 田中作次

第94回国際ロータリー年次大会がオーストラリア・クイーンズランド州の州都ブリスベンで2003年6月1～4日の間開催されます。

ビチャイ・ラタクルRI会長は、この大会において「慈愛の種を播きましょう」のRIテーマを大いにうたいあげ、世界中の草の根ロータリアンのボトムアップの力を世界の恒久平和にむけて結集しようと呼び掛けておられます。

開会日の2003年6月1日に、恒例の「日本人親善朝食会」を開催いたします。皆さまにおかれましては、ぜひご友人お誘い合わせの上ご参加賜りますようここにご案内申し上げます。例年の通り、ビチャイ・ラタクルRI会長はじめ多くの国際ロータリーシニアリーダーをお迎えし、親しくお話をいただくことになっておりますので、ご期待いただきたく存じます。

日時 2003年6月1日
午前8時30分から10時まで

場所 大会場と同じBrisbane Convention & Exhibition Center内のプラザ・テラスルーム (650人収容)

会費 1人 3,000円
Queenslander Breakfastを用意いたします。

お申し込みとお支払いの方法は、東日観光(株)、(株)JT、(株)日本旅行、(株)日本通運、(株)阪急交通社、近畿日本ツーリスト(株)をご利用の方は、それぞれの旅行社を通じて、お願い申し上げます。

締め切り日は、2003年4月30日とさせていただきます。

*月信12月号p25の旅行スケジュール内で「日本人朝食会」の日程が6月2日(月)となっておりましたが、これは6月1日(日)の誤りです。

クラブ活動 紹介

創立30周年記念事業 映像システムを町に贈呈

荒木義広（えりもRC）

えりもロータリークラブは創立30周年記念事業の一環として、今年4月に開館する「えりも岬林業総合センター」の展示室に設置し、国有林の緑化事業を紹介する映像システム一式（約100万円相当）を町に寄贈した。



当クラブは襟裳岬国有林の緑化事業支援を年間活動の中に位置づけて毎年同地区で開催される植樹祭に会員が参加し協力している。



みんな笑顔に…ピース!!

～札幌雪まつり雪像制作～

安藤由香里（札幌北RAC）

昨年に引き続いて、私達は札幌雪まつりの市民雪像制作に参加しました。今年のテーマは「みんな笑顔になりますように……ハイ チーズ!!」ということで、いわゆるピースサイン、Vサイン、じゃんけんのチョキを作成しました。そこには私達のたくさんの思いがこもっています。

英国のチャーチルが国民に示した「Vサイン」、反戦運動などのシンボルとして使用された「ピース」、この手の形には大切なメッセージが込められていて、それは世界共通のシンボルともいえます。みんなの心に平和が訪れ、笑顔になりますように……そんな思いを込めてみました。何より、私達の雪像の前にたち、笑顔でピースサインを出して、楽しい時間してくれることを望みました。

制作初日は初めの3時間は、二人っきりの作業でした。昨年作っているメンバーは、ものすごい勢いでどんどん「破壊」していきます。「大丈夫かな～」と思っていると、なんとなくピースの形になっていました。

その後の作業には、交換留学生、インターアクトクラブ、ロータリーアクトの仲間や友人など、沢山の人が参加してもらいました。また、提唱RC以外のロータリアンの方々にも、差し入れや激励をいただきました。ありがとうございます。道を歩く人達にも、声をかけていただきました。雪像を作ることで、沢山の人の交流の輪が広がる、このことが雪像を作ることの楽しさだと思います。



もっともっとロータリアンの方たちに宣伝をするべきだったのではないかと、一般の方の参加を呼びかけるべきだったのでは、など沢山の反省点がありました。来年はこの反省点をいかして、さらにバージョンアップした雪像を作っていきたいと思っています。

実行委員長として、雪まつり期間中も毎日雪像を見に行きました。私達の雪像は外国の方たちから特に好評のようでした。雪像の前で記念撮影をしてくれたり、

子どもがピースの手を真似しているのを見るときが、「作ってよかった」「うれしいなあ」と心の底から思う瞬間でした。

来年も作りますので、期待しててください！

ユジノサハリンスクde 広げる輪！

岡部文佳（札幌北RAC）

私たちは、11月30日に「第5回 チャリティーボーリング大会」を開催しました。提唱RC以外にも札幌はまなす、札幌セントラルなどのロータリークラブの方たちにご参加いただき、沢山の浄財を集めることができました。

その浄財で「日本の玩具」を購入し、ユジノサハリンスクの孤児院へ贈りました。



ただ何かをあげるのではなく今後の交流につなげていきたい、との思いから、「日本を知ってもらおうきっかけにしてほしい」「私達がユジノサハリンを訪問したときに一緒に遊べる」ということで、剣玉・お手玉・折り紙・だるま落としなどの日本の伝統的なおもちゃを贈ることにしました。

なぜユジノサハリンスクなのか？

昨年の札幌雪まつりで来札したユジノサハリンスクRACと雪像制作をしていた私達札幌北ロータリーアクトクラブは交流があり、共同プロジェクトを行っているからです。これまで……

・互いの地域の子どもの絵を交換



し、展示会を開催。（札幌市立北の沢小学校の子どもたちの絵、ユジノサハリンスクの孤児院、日曜学校の子どもの絵）

・「ボシチパーティー開催」ユジノサハリンスクからの財団奨学生とともに。彼女は帰国後RACの会員に！

・チャリティーボーリング大会後の贈り物も、彼らに渡していただきました。

インターアクトボランティア部の紹介

函館大谷高校インターアクトクラブ
クラブ会長 三ツ石隆博

僕達、インターアクトボランティア部は、3年生12名、2年生4名、1年生2名の計18名で活動しています。

今年は、5月の大森浜清掃ボランティアから始まり、玄関前プランターの花植え、あしなが奨学金募金、7～8月に行われた、函館市民野外劇の準備、出演など様々な活動をしてきました。今年の野外劇は、雨天の影響で中止や追加公演がありとても大変でしたが、最終公演が終わった時の感動は忘れることができません。

この部は、函館北ロータリークラブの支援を受けて活動しています。時々、北ロータリークラブの方が、例会に参加してくれますが、必ず言われることが一つあります。それは、部員の人数を増やして欲しいということです。現在、僕達は18名で活動していますが、3年生の先輩方が卒業すると、部員はたったの6名しかなくなり、結成3年目にして、存続が危うくなってしまいます。

これからは、顧問の鰐淵先生と大間先生の指導を受け、部員をたくさん増やし、活動範囲をもっと広げ、皆にボランティア活動に対する関心を深めてもらうように、僕達部員一同力を入れて頑張りたいと思います。

中国上海視察旅行で、家族に「慈愛の種」

小林 進 (室蘭東RC)

当クラブは、北海道の湘南とも言われる比較的暖かい地区で、会員56名で構成しています。今年度の主なもの事業の1つであり、上海視察旅行が10月11日～14日の日程で行われました。

参加したのは12日に出発・合流した第2陣と合わせて総数30人。これまでも韓国、モンゴルやシンガポールなど、数年毎の割合で旅行を企画して、併せて旅先のロータリークラブを訪問し、国際交流を深めてき

ましたが、家族の多数の参加で今回はかつてない規模になりました。

中国においては、「ロータリーの友」2002年5月号でも紹介記事のあったとおり、北京と上海に仮ロータリークラブが承認されるようで、正式な復活が待ち望まれるところです。このため、恒例だった旅先でのロータリークラブ訪問こそ残念ながら実現できませんでしたが、記事内容が発端となり、目的地は上海に決まりました。

急速な変貌と成長を続ける中国、そして、その中心都市上海への会員の関心は高く家族での参加を熱心に呼びかけたところ12名が家族同伴することになりました。クラブの活動が広がった事や「ロータリーは家族が基本」である趣旨は会員相互だけでなく家族に対し「慈愛の種」を播くことができたと自負しています。

第1陣は11日夕方到着の後、中国一の大河揚子江の支流で上海市内を流れる黄浦江のディナークルーズで夕食。翌日は上海から車で約1時間ほどの所にある、東洋のベニスと称され、絹の刺繍で有名な蘇州市内を観光しました。その夕方、ホテルで第2陣と合流し、全員での初めての会食のあと上海雑伎団を観賞しました。



中国茶の試飲



刺しゅう製作の見学（蘇州市にて）

13日は上海市内を観光しましたが、高層ビルが建ち並ぶその景観は、北海道の“片田舎”のロータリアンから見ると、まさに驚きの大都会。WTOに加盟してますます経済が急成長を遂げる中、さらに2008年の北京オリンピック、2010年の上海万国博覧会（立候補中）をひかえ、街並みや人々から伝

わるその活気はマスコミなどで伝え聞く情報に違わず、それ以上の観さえありました。

あちこちで建設中のオフィスビルやマンションを見て「これじゃ日本もかなわない」という声もあれば一方で「まさに日本のバブル時代そのもの。5年、10年後にはどうなることやら」と冷静に分析する声もありました。

もちろん親睦重視の室蘭東ロータリークラブですから、最終の夜は、お目当てのあの上海蟹をごちそうに、旅の疲れを見せない大宴会で盛り上がったことはいうまでもありません。



租界の庭園で



4つのPET

医療の分野でPETというがん診断の最新機器が評判になっている。このPETは英語でPositron Emission Tomographyの略で最近のCT、MRIなどよりさらに一歩進んだ解析能力を持っている。

ロータリーにPETSというのがある。これは言うまでもないが会長エレクト研修セミナー（President Elect Training Seminar）のことである。

略語が一致することはよくある。3つ目は、ペットボトルのPETである。これは、poly(ethylene terephthalate)（ポリエチレンテレフタレート）という高分子物質のことである。

最近第4のPETが出てきた。先日の第4、5グループのIntercity Meeting (IM)で土橋芳美さん（札幌南RC土橋信夫会員のご夫人）が紹介してくれた「親業」というのは家庭において親が何を学ばなければいけないかである。親業のことは英語でParent Effective Training=PETというのだそうである。

国立保健医療科学院研究情報センターの望月友美子部長はたばこは個人の嗜好ですまされる問題ではなく、今や政治経済の立場から論じなければならぬと強調。たばこが原因で死ぬ人はわが国だけで年間10万人、世界全体で400万人といわれている。

欧米では既にたばこのない社会、Tobacco Free Societyという社会通念のもとで個人もこの依存から脱却しつつある。ところが欧米でのたばこ消費の余剰分はアジア、アフリカ諸国に押し付けられている。

わが国のたばこ対策の現状の手ぬるさもある。JT（たばこ産業株式会社）の筆頭株主が財務省であり、税収の相当部分がたばこに依存している現状がある。さらに、たばこ対策は従来の啓発普及や禁煙支援事業だけでなく、たばこの注意表示が日本ではまだ手ぬるい。

さらに広告規制、入手制限、公共機関の禁煙などの政策を総合的に実行していく必要がある。特にたばこ税の値上げによる税収の増加分を健康政策にも当てるのがよいのではないかと。



連絡先：(財)札幌がんセミナー

札幌市中央区大通西6丁目6 北海道医師会館6階

TEL：011-222-1506/FAX：011-222-1526/E-mail：scs-hk@phoenix-c.or.jp/URL：http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/

広告

会員の声



「個々のロータリアンに対する四大奉仕部門功労者賞」を受賞して

今川徳郎 (江差RC)

当クラブは、去る2002年6月29日にめでたく40周年を迎える事ができました。唯一のチャーターメンバーとしてこれまで四大部門に奉仕した事に対し、この度思わぬ賞を受賞することができ感謝しております。

その中でも最も思い出に残る奉仕事業としては、ある海岸の無医地区に無料診療奉仕を行った時のことです。診療最中に子供が海におぼれ仮設の診療所に運び込まれたのです。診るとすでに呼吸停止の状態、周りの人は只オロオロするばかりです。早速人工呼吸で息を吹き返すことができ事なきをえて、大いに感謝されました。これなどはまさしく社会奉仕と職業奉仕を同時に実施した事例だと思えます。この他にもいろいろ思い出に残る奉仕事業を行ってきましたが、この度の受賞を機に、これからも体力の続く限り奉仕事業に尽くしたいと思えます。



身近な海が汚されていることをご存じですか

佐藤順一 (当別RC)

積丹町幌向の漁港の海中の清掃のため年4回潜っております。たまたま、昨年12月初旬に漁師さんから魚が異常に死んでいるという報告を受けました。

本来海草が多く生息するべきところが砂地となっています。また、石灰化

が始まっておりまして、ほとんど水中生物は見当たりません。

魚の大量死の原因は、海上投棄されたたった1個のバッテリーでした。ホッケやボラ等の大きな魚も死んでいます。恐らく釣り人が夜釣り等で落としたのか、バッテリーが海中の中にありますと鉛中毒となるとということです。たった1個のバッテリーで港一面にこれだけ多くの魚を殺してしまうのかなど、考えさせられます。

「海水はきれいに見える」というご意見がございましたが、長期間プランクトンが発生しておりませんので、透明度が非常にいいです。ですが、不思議にも生き物が全くおりません。ここは私たちが定期的に清掃しているのでまだきれいなほうですが、余市や小樽、石狩の海はこの比ではないと思えます。このように海は表面上大変きれいに見えますが、海中は大変なことになっています。

では私たちはどうすればいいのか。お聞きになったことがあると思えますが森を育てることが水をきれいにすることになります。日高、浦河、襟裳などではすでに漁業組合が植林をして海をもとに戻しています。

もう一つ、原油の産出国近海では原油汚染が社会問題になっています。それは原油を降ろした後、大型タンカーのバランスをとるために海水を入れて帰ります。そして近海でその海水を排出するわけで、この時タンク内に残っている原油等と一緒に排水され、海は汚染されます。中和剤なども散布しますが、中和剤その物も環境にいいものではありません。

このように海の環境は決して良いとは言えません。一人ひとりの意識を高めることはもちろんですが、ロータリーとして何か良い支援ができればとの思いがあります。



忙中閑あり……小林ガバナーご夫妻、岩内温泉に“つかる”ロータリーの心はFamilyだ!!

大橋由政 (岩内RC)

昨年10月実施された年次大会、“アグネス・チャン”さんの講演。今さらながら素晴らしい講演であった。彼女の飽きさせない、寝させない約2時間半。内容のみならず色々な面において学べる出会いでありました。

小林ガバナーさん始め、札幌北ロータリークラブの皆様方には改めて感謝申し上げます。

昨年末、ロータリーの会合で小林 博ガバナーさんにお会いする機会があり年次大会の感動をお伝えした折に、岩内の温泉に大会の疲れを癒しにお出でになりますかと声をお掛けしたことがきっかけで1月31日～2月1日の泊2日にて小林ガバナーご夫妻、岩内クラブ卓話等でお世話になっております奥貫地区新世代委員会委員長様、そして今年で3年目、岩内クラブ、小樽商科大学留学生への奨学図書券[1万円×5名]贈呈プログラムの橋渡しをして頂いた見延地区米山学友委員会委員長ご夫妻の5名がお見えになりました。

温泉旅館で会食後、クラブ会員のダンスホール「キング」さんで歓迎会。余市より近藤ガバナー補佐さんも出席され水割り片手に本当にごっくばらんな楽しい会話の時間を持つことが出来ました。

小林ガバナーさんも温泉の温かみを感じたのか“女将”の瞳に酔ったのか(幸子奥様すみません)カラオケ・マイクをもって“おほこ1曲”アダモノ♪雪は降る……会場にいたお客さまも声にじびれ次々とダンスを。



ロータリークラブはファミリーだ。他地区クラブ会員ご夫妻が当地を訪れ当クラブの会員と交流して改めて実感しました。ここにもロータリークラブとしての良さの一端が……五端かな？

私の任期もあと5カ月、皆様からエネルギーを頂きながら全力で。

“雪見酒 明日の活力 ロータリー”



GSE受入世話クラブの役割と苦勞

中村和雄
(札幌手稲RC)

今年度のGSEは、フィリッピンRI3830地区から6名のメンバーが来日し、11月11日から一週間当クラブでお世話させていただきました。

6月に特別委員会を設置して、国際奉仕委員3名と特別委員5名の計8名のスタッフで実行に当たりました。

以下、今後引き受けるクラブの参考になればと思いポイント別に整理します。

研修プログラム

研修プログラムは、他クラブと重複しないように地区委員と相談しながら、作成しますが色々な機関にお願いするため大変な労力を要します。

団体研修～札幌市内の交通事情を考慮してマイクロバスを借り上げ、会員が運転しました。

個別研修～それぞれ研修先が異なるため各会員のマイカーを使用しました。

言葉の問題～チームの中に日本語が話せる人が居るとの、事前情報でしたが、結局通訳はGSE委員と会員の奥様、交換留学生等をお願いしました。

ホストファミリー

当クラブ3名、札幌西RC2名、あけぼのRC1名にホストファミリーをお願いしました。

ホストファミリーには、地区より日額3千円が支給されます。

初日にメンバーの一人が、動物アレルギーで呼吸困難になり急遽ホテルに一泊するアクシデントもありました。

費用負担

地区からは、メンバーの宿泊費を除けば6万円しか出ません、従って殆どが世話クラブの負担になります。

参考まで申し上げますと、当クラブの負担は約24万円でした。

まとめ

受入世話クラブが多大な労力と資金を費やしていることを、地区トップ及び会員の皆様に知っていただければ幸いです。



川柳20句『友』に掲載

喜多 昌(えりもRC)

平成11年7月に入会し『ロータリーの友』に投稿をはじめました。初掲載は同年12月、その後も投稿を続け今年2月号で待望の20句目が掲載されました。

掲載された川柳は下記の20句です。

ロータリー 「川柳」 喜多 昌

1 初卓話趣味の川柳役に立ち

1999・12月号

2 高価格干す手も踊るこんぶ漁

2000・1月号

- 3 介護度を無情にはじくコンピューター
2000・3月号
- 4 アイドルのきんさん天の星となる
2000・5月号
- 5 人形で孫の産湯のリハーサル
2000・6月号
- 6 ランドセルはなまるノート弾んでる
2000・8月号
- 7 握手した人を積み上げ票を読み
2000・10月号
- 8 予報士にハツ当たりするコンプ漁
2000・11月号
- 9 長生きも自問自答の敬老日
2001・1月号
- 10 質問が錬金術となる議会
2001・4月号
- 11 徳依踏んばっている森総理
2001・6月号
- 12 介護度の自立を誇る老いの意地
2001・7月号
- 13 ワイドショーよりも国会視聴率
2001・8月号
- 14 ◎墓参り無沙汰を詫びて背を流す
2001・11月号
- 15 不況には負けぬどでかい鏡餅
2002・4月号
- 16 お茶の間を闊歩しているランドセル
2002・6月号
- 17 ◎ありがとう言葉大事に生きてゆく
2002・8月号
- 18 星取表やの字が目立つ名古屋場所
2002・10月号
- 19 企業より刑務所誘致にける町
2002・12月号
- 20 来年の生きる力に買う日記
2003・2月号

◎印 特選

ご予約・お申し込みは

●お客様を大切にするフリーダイヤル

いいさしみと寿司

☎ 0120-134344

ネタは新鮮 通の味
おたる 政寿司 すずきの店

【本 館】札幌市中央区南7西3 (仲通り) ☎(011)511-0440

●営業時間/11:30~23:00

SEKISUI 北海道セキスイハイム(株) 南展示場

●環境共生2世帯住宅

●モデルホーム
オーナー募集中

〒064-0923
札幌市中央区南23条西10丁目
北海道マイホームセンター南会場
TEL (011)-563-5816
FAX (011)-563-7816



掲示板

例会変更

- 芦別RC 3月21日(金) 休会*
 - 美瑛RC 3月13日(木) 夜間例会 18:30~
 - 江別RC 3月20日(木) 休会*
 - 岩見沢RC
3月14日(金) ボーリング大会例会 18:00~
場所: 西友ポルタ 5階 トーホーホール 会費: 1,000円
 - 苫小牧RC 3月21日(金)*
 - 苫小牧東RC
3月20日(木) 移動例会 12:30~
場所: ウトナイ湖野鳥保護センター
- 注) *定款第5条第1節に基づく休会

お詫び・訂正

2月号の中で誤りがありましたので、お詫び致しますとともに下記の通り訂正致します。

- p16 新入会員紹介
函館亀田RC 正) 西谷裕幸会員
- p24 R財団への寄付者
MPHF 伊藤竹雄会員 正) 苫小牧北RC

ロータリー財団への ご協力に感謝申し上げます

バネファクター

坪谷六郎会員 (滝川RC)	9月27日
小林 博会員 (札幌北RC)	9月27日

菅原会員、鍋谷会員 メジャードナーに

菅原剛太郎会員(滝川RC)と鍋谷操子会員(函館東RC)がR財団のメジャードナー(大口寄付者)となりました。お二方のご貢献に心から敬意を表します。なお、地区からの表彰状は、次年度の地区大会時に贈られる予定です。

JGFR北海道大会へのお誘い

日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会

JGFR北海道大会(第13回大会)が下記実施要項で開催されます。全国のロータリアンと理解と友情を深める場となる様2510地区内ロータリアンの多数の参加をお待ち申し上げます。

- と き 平成15年6月16日(月)
 - と ころ 札幌ゴルフ倶楽部(輪厚コース)
 - 登録費 15,000円(道内会員のみ)
(ご夫婦ペア参加お二人様28,000円)
 - プレー費 約22,000円(特別価格)
- ※申込は各クラブ事務局経由ガバナー事務所まで

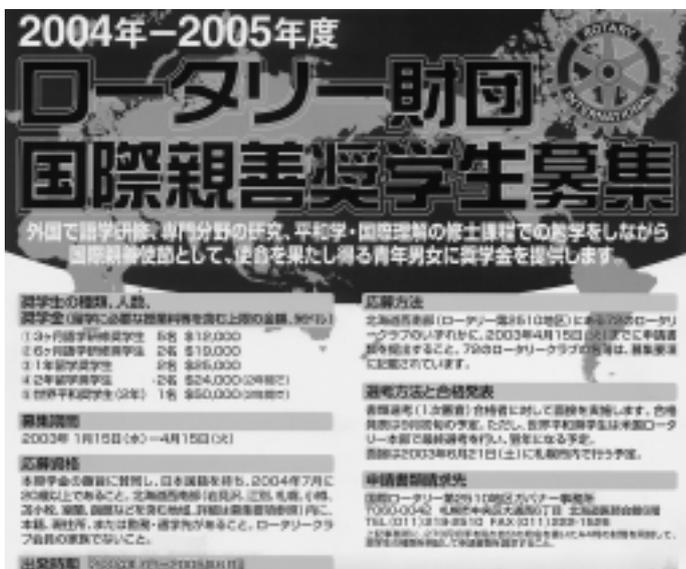
- 日本ロータリー親睦ゴルフ大会第13回大会
- 会 長 小林 博(ガバナー)
- 実行委員長 金子賢一(岩見沢RC)
- 事務局 灰野 篁(札幌北RC)
長太義雄(札幌北RC)

事務所だより

- R財団、米山財団への寄付をされた際には、送金明細書の控えをガバナー事務所へお送り下さい。FAXで結構です。
- 毎月の会員数および出席率の報告は、最終例会終了後15日以内です。期日の厳守をお願い致します。
- 月信への原稿をお寄せ下さい。特にクラブ活動、会員の声へのご投稿をお待ち致します。投稿の際には、スナップ写真も添えてください。
- 3月のロータリーレートは、122円です。

国際ロータリー第2510地区 2002-2003年度 ガバナー月信

- 発行人 2002-2003年度ガバナー 小林 博
- 発行元 国際ロータリー第2510地区
2002-2003年度ガバナー事務所
- 発行日 毎月1日発行 年12回
- 編集委員 ◎竹原 巖(地区幹事) 委員長 大田すみ子(地区幹事)
熊谷 満(地区幹事) 脇田 稔(地区幹事)
アドバイザー 米山 道男(地区幹事) 松木 新(アイワード)
- 事務局 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp
- 印刷: (株)アイワード TEL241-9341



奨学生の種別、人数、奨学金(留学に必要な旅費を除く)と上限金額、科目

1. 3ヶ月前留学奨励奨学生	人数	5名	\$12,000
2. 6ヶ月前留学奨励奨学生	人数	2名	\$10,000
3. 1年間留学奨学生	人数	2名	\$8,000
4. 2年間留学奨学生	人数	2名	\$24,000(2年分)
5. 3年間留学奨学生(2年)	人数	1名	\$50,000(3年分)

募集期間 2003年1月15日(水)~4月15日(火)

応募資格 本財団の奨学金に賛同し、日本国籍をもち、2004年7月に20歳以上であること。北海道内(岩見沢、江別、札幌、千歳、苫小牧、美瑛、網走)に在住し、詳細は募集要項を参照し、本誌、新社刊、または財団・留学先がわかること。ロータリークラブ員か家族でなければならず、奨学金の返還がないこと。

出賞時期 2003年12月~2004年1月

応募方法 北海道内(ロータリー第2510地区)にある2002年ロータリークラブのメンバーに、2003年4月15日(火)までに申請書類を提出すること。JGFRロータリークラブの事務局は、募集要項に記載されています。

連絡先と送付先 事務局(1次審査)の特許に対して書類を提出し、合格者は2003年度の卒業後、2510地区の青年学生生活課(ロータリー本部)で最終審査を行い、発表になる予定。最終発表は2003年5月21日(土)に札幌市内で行われます。

申請書類送付先 国際ロータリー第2510地区ガバナー事務所
〒000-0042 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp

1月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例数	会 員 数			出席率
			02.7.1	03.01.31	増減	
1	川	4	46	44	-2	87.80
	帆	3	47	48	1	78.12
	背	4	12	12	0	77.08
	平	4	15	17	2	61.76
	萌	4	69	66	-3	86.02
	計		189	187	-2	78.16
2	平	4	37	37	0	90.99
	別	4	60	58	-2	94.81
	川	3	61	58	-3	94.81
	瀧	3	108	113	5	75.00
	計		266	266	0	88.90
	小	4	48	47	-1	84.18
3	眼	3	50	49	-1	87.75
	別	3	41	41	0	92.50
	沢	3	97	102	5	88.37
	見	4	33	34	1	90.45
	東	4	35	33	-2	92.23
	計		384	385	1	90.39
4	帆	3	120	128	8	97.91
	あ	3	19	18	-1	100.00
	は	4	29	29	0	79.31
	北	3	58	57	-1	87.50
	西	4	75	76	1	94.30
	計		466	473	7	90.88
5	東	4	123	122	-1	98.19
	清	4	26	28	2	97.12
	南	4	88	83	-5	99.06
	内	4	50	48	-2	98.31
	南	4	97	97	0	96.46
	計		442	441	-1	90.33
6	通	3	17	17	0	85.78
	公	4	0	24	24	88.50
	園	4	0	24	24	94.22
	計		443	460	17	77.02
	内	3	37	37	0	81.00
	知	4	54	53	-1	90.85
7	梅	4	96	95	-1	87.50
	南	4	86	88	2	85.00
	函	3	20	20	0	85.93
	函	3	49	48	-1	87.96
	市	3	49	48	-1	85.04
	計		360	359	-1	

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,458人
 当月末会員数(女性) 3,477人(98人)
 増加会員数 19人
 当月平均出席率 84.42%

グループ	クラブ名	例数	会 員 数			出席率
			02.7.1	03.01.31	増減	
7	歳	4	74	76	2	85.50
	千	3	33	34	1	91.90
	歳	4	50	49	-1	85.10
	北	3	16	15	-1	94.65
	長	2	18	18	0	94.30
	計		209	210	1	80.56
8	え	4	27	28	1	82.40
	三	3	20	19	-1	97.36
	棟	4	24	23	-1	91.00
	静	4	68	68	0	88.89
	浦	4	41	39	-2	82.42
	小		180	177	-3	88.41
9	伊	3	53	56	3	80.36
	室	3	66	62	-4	64.92
	室	4	56	53	-3	84.00
	室	5	52	51	-1	71.08
	登	3	40	40	0	85.00
	洞	4	14	13	-1	69.00
10	小		281	275	-6	75.73
	函	4	101	105	4	77.14
	函	3	51	53	2	78.21
	森	4	51	49	-2	68.00
	七	4	33	32	-1	78.00
	長	3	11	12	1	70.50
11	小		247	251	4	74.37
	江	4	20	20	0	69.60
	函	3	71	71	0	81.36
	函	4	67	66	-1	77.05
	函	4	46	47	1	74.88
	上	4	34	34	0	63.8
12	松	4	8	8	0	69.00
	小		246	246	0	72.62
	白	3	34	35	1	82.00
	吉	3	68	69	1	84.26
	吉	4	33	34	1	88.86
	小	4	52	50	-2	87.47
小		187	188	1	85.65	
合		3,458	3,477	19	84.42	

3・4月地区カレンダー

3月		4月	
日	曜日	日	曜日
1	土	1	火
2	日	2	水
3	月	3	木
4	火	4	金
5	水	5	土
6	木	6	日
7	金	7	月
8	土	8	火
9	日	9	水
10	月	10	木
11	火	11	金
12	水	12	土
13	木	13	日
14	金	14	月
15	土	15	火
16	日	16	水
17	月	17	木
18	火	18	金
19	水	19	土
20	木	20	日
21	金	21	月
22	土	22	火
23	日	23	水
24	月	24	木
25	火	25	金
26	水	26	土
27	木	27	日
28	金	28	月
29	土	29	火
30	日	30	水
31	月		



ロータリー会員地域紹介

様似町



様似町の「花」……ヒダカソウ

ヒダカソウは、キンポウゲ科の多年草、様似町アポイ岳の固有種。大変珍しい高山植物で、昭和58年郵政省発行の「高山植物シリーズ郵便切手」として採用になりました。



高山植物の宝庫「アポイ岳」は様似の宝

街を見下ろすようにそびえる「アポイ岳」は、810.6mの山ですが、地質と気象条件で、80種以上の高山植物が生息する群落は、国の特別天然記念物に指定されております。

またアポイ岳の地質「カンラン岩」は、マントルが押し上げられて地表に露出したとされ、世界的な学術標本と言われ、昨年アジアで初めて様似町で国際会議が開催されました。



ご意見・投稿募集

『ガバナー月信』では、より会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行ないたいと考えております。『月信』に関するご意見・投稿などございましたら下記事務局へ。

事務局 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F

TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526

E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp